四．三重の研究

三重……三重という称呼は元来，声明から出た。声明では，音域の高さを初重・二重・三重の三段階とし，三重は最高音で，またそれが一種の旋律の形ともなった。次いで平曲においては，大体声明通りに，音域を示す名として，また旋律型の名ともして，これを用いた。

しかるに浄瑠璃に至っては，これを平曲に真似て音域と旋律型として用いたのは河東節（一のVとして既出）だけで，義太夫節では段と段との間の繋ぎとして奏する終奏もしくは序奏の名として用い，歌舞伎の下座音楽でも，場面の転換や景容にしたがって三味線を主奏とする一種の旋律を三重と呼び馴わすようになり，その曲節の相違にしたがって種々の三重を作り出した。そして場面転換のための三重は，唄を伴なわず三弦のみで奏するのを原則としている。

A）古浄瑠璃と三重

外記節（外記直政）　早三重
土佐節（土佐正勝）　本三重，早三重，二ツ三重
播磨節（井上播磨）　三重，引取三重
角太夫節（山本土佐）　三重，勢三重，送リ三重，引取三重，大三重，中三重，ツキ三重
加賀節（宇治加賀）　三重，半三重，引取三重
上方説経（佐渡七太夫）　三重
江戸説経（天満八太夫）　三重

B）『浄瑠璃秘曲抄』（宝暦７板）記載の「三重七ヶ之品」

大三重　真の三重ともいふ。これは初段の中入より外にはなきことなり。
例　曽我五人兄弟（廃曲）
三　重　常の三重なり。
猛三重　例　義経千本桜　序の中（廃曲）

愁三重　例　芦屋道満　四の口
中愁三重　例　千本桜　二の口
錣三重　これは大方道行の中にあり。(例は挙げず。)
吟三重　トルともいふ。例　忠臣蔵〈**楽譜300**の 引取三重 の個所〉

C)『江戸節根元集』記載の三重の種類

本三重　片三重　上リ三重　下リ三重　忍三重　天皇三重
甲三重　大三重　クリ三重　カワリ三重　イロ三重　釣鐘三重
岡崎三重　清掻三重　獅子三重　別三重　切合三重　愁三重
山入三重

D)『老の戯言』記載の三重の種類

愁三重　おふさ段切，おかめ段切　幾通りもあり（両曲廃曲）
勢三重　景清　その勢ひぞ，忠信　麓をさして
世話三重　商人などの引込
消三重　すべて怪物の類なり
引取三重　鉢の木　姿は消えて，子宝　ほたけ祭
送リ三重　瀬川　ゆく雲の
行列三重　五人囃子　お先揃へて花やかに
六部三重　極楽　一重つんでは父のため
対面三重　中村座，市村座　二通りあり

E) 歌舞伎下座囃子の三重

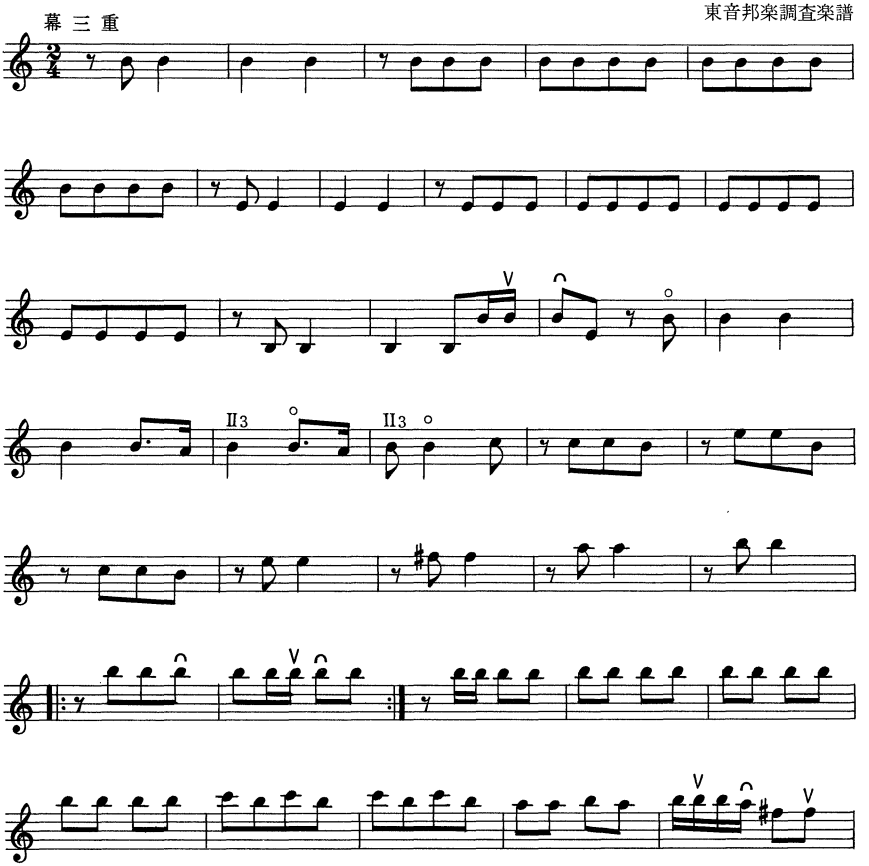
幕三重　忠臣蔵三段目と四段目のつなぎに弾く
忍三重　忠臣蔵五段目，鈴ヶ森など
愁三重・送リ三重　忠四の由良之助，陣屋の熊谷等の引込
六部三重　六部の出に用いる
水気三重　水の沸騰する景容

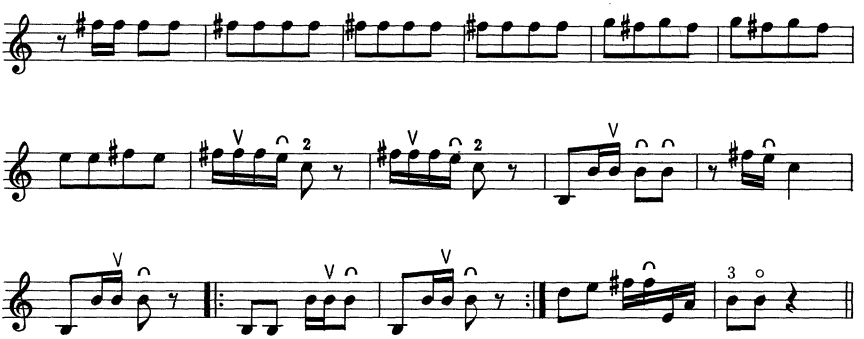
幽霊三重　寝鳥ともいう。幽霊の出に用いる
行列三重　大名などの行列の景容
対面三重　曽我の対面にて兄弟の出に用いる

I　特殊なる三重

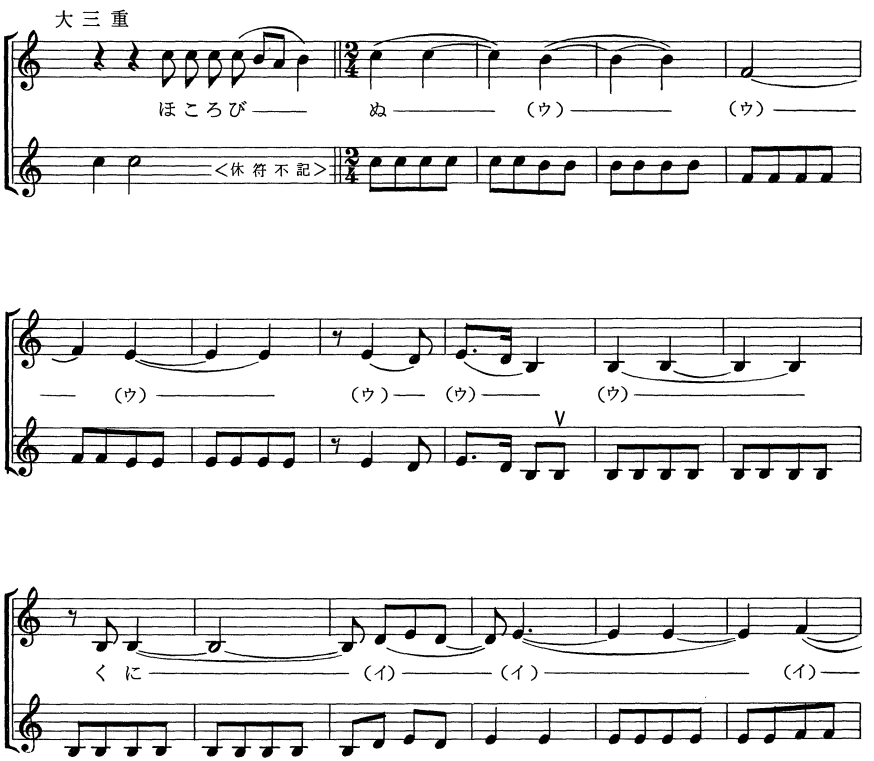
287. 歌舞伎下座〔忠臣蔵三段目と四段目のつなぎ〕1世今藤長十郎演

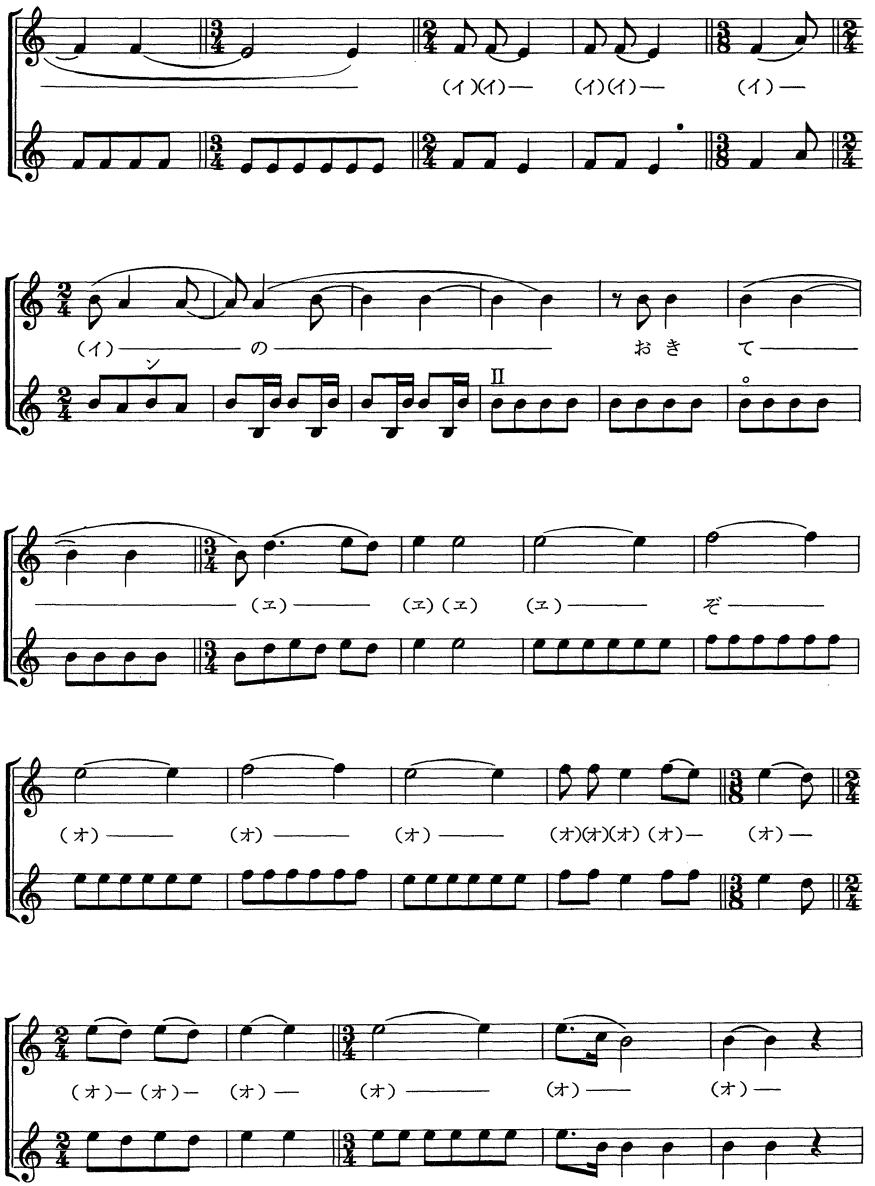
東音邦楽調査楽譜

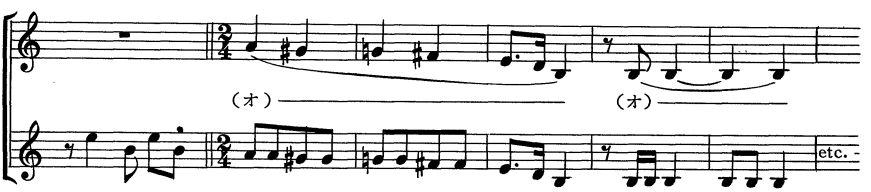




288．義太夫節　忠臣蔵大序(寛延１)

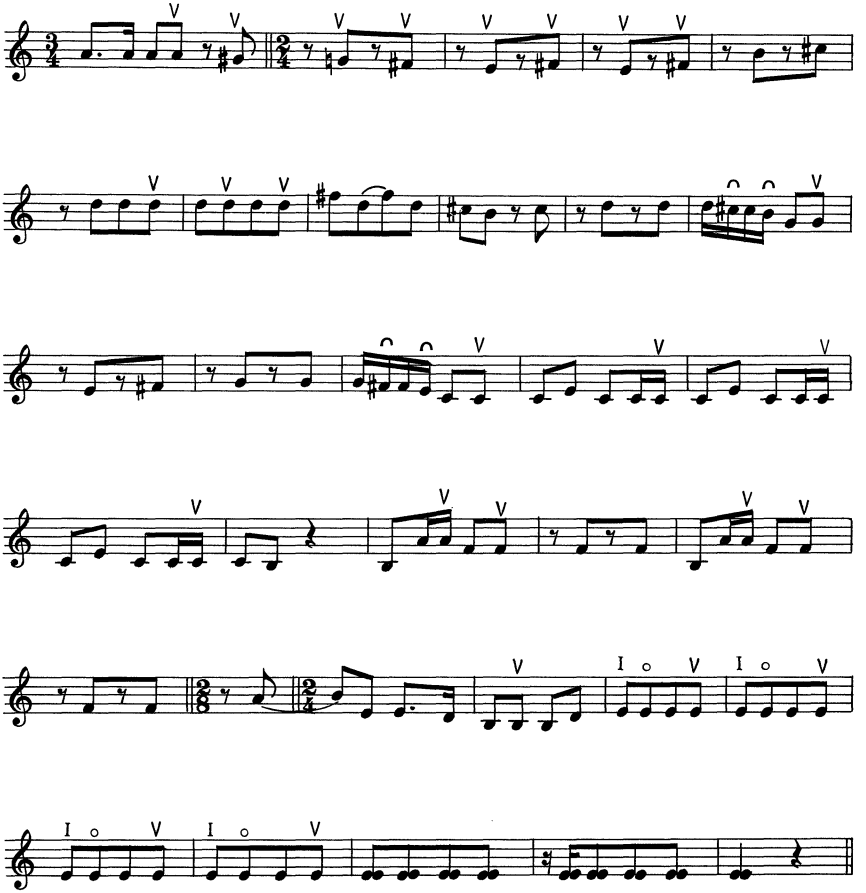



(イ)(イ)— (イ)(イ)— (イ)—
(イ)— の — おきて—
(エ)— (エ)(エ) (エ)— ぞ—
(オ)— (オ)— (オ)— (オ)(オ)(オ)(オ)— (オ)—
(オ)—(オ)— (オ)— (オ)— (オ)— (オ)—



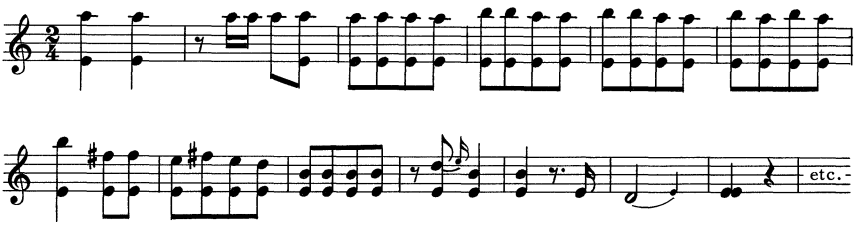
289. 河東節-半太夫もの　釣狐の段/蟬丸笠の段

山入三重

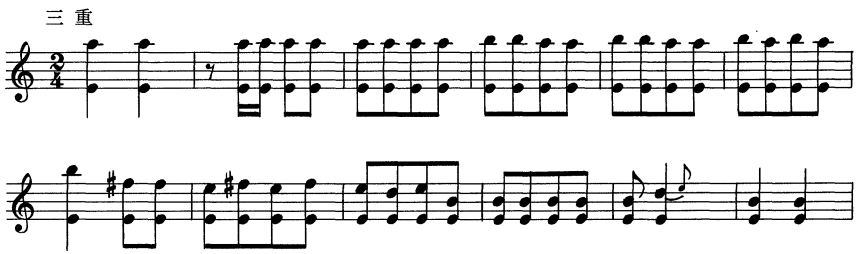


Ⅱ　曲頭に弾かれる三重

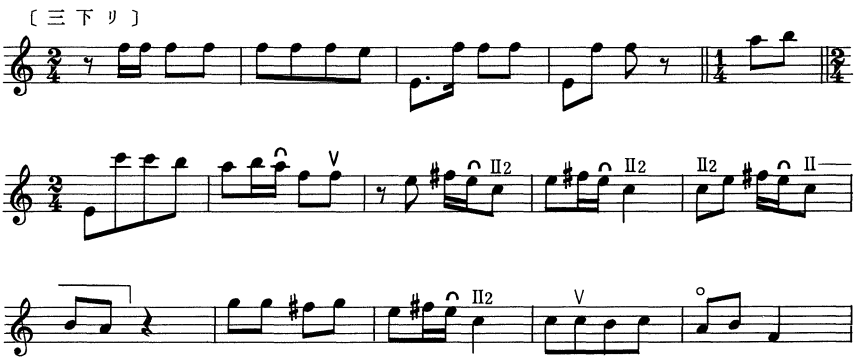
290．宮薗節　夕霧

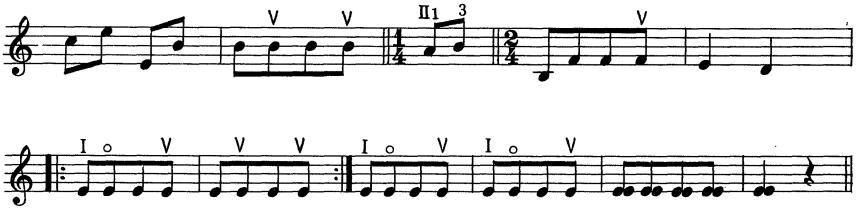


291．長唄　四季山姥



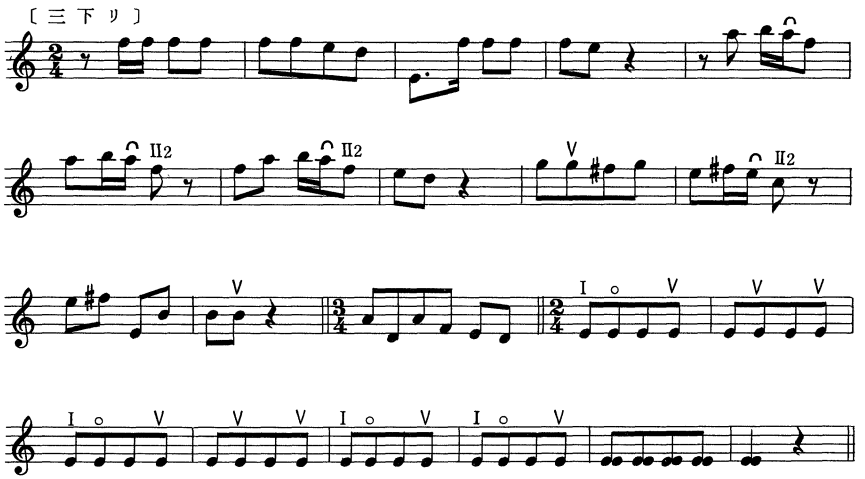
292．長唄　百夜車(明和２)





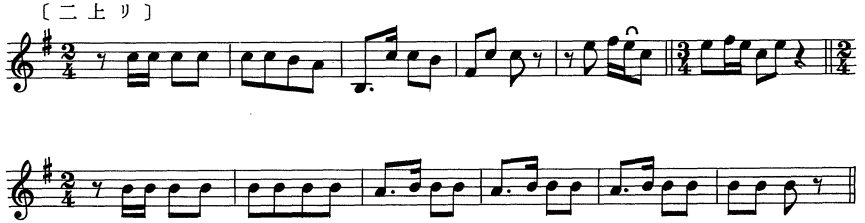
293. 長唄　与作

〔三下リ〕



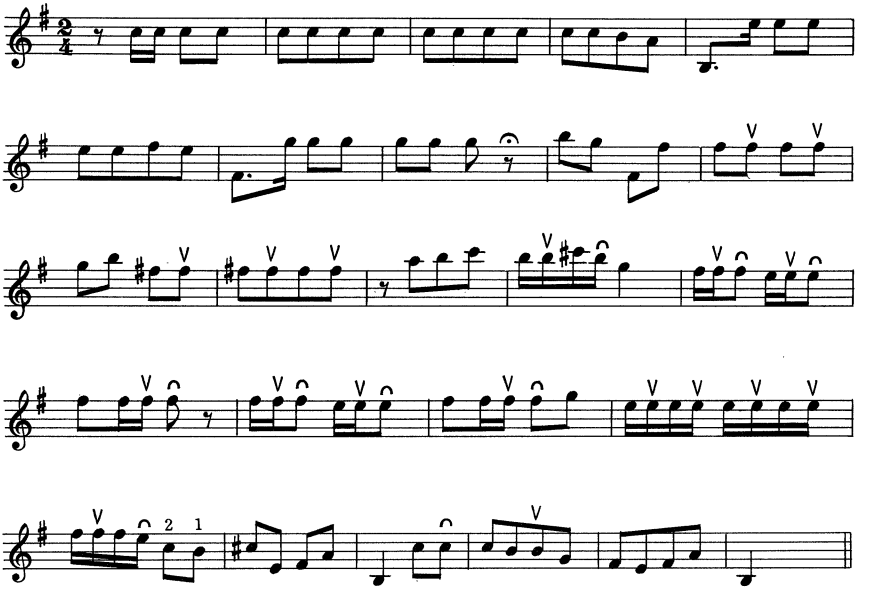
294. 長唄　綱手車(明和2)

〔二上リ〕



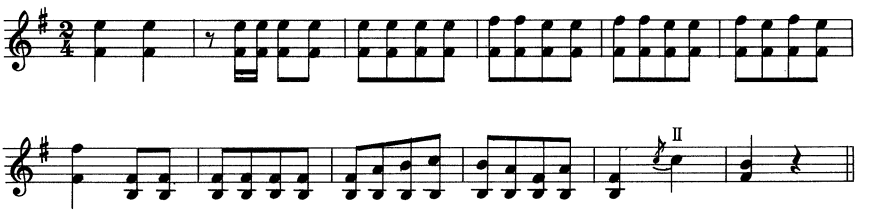
295. 長唄 花見踊

〔二上リ〕



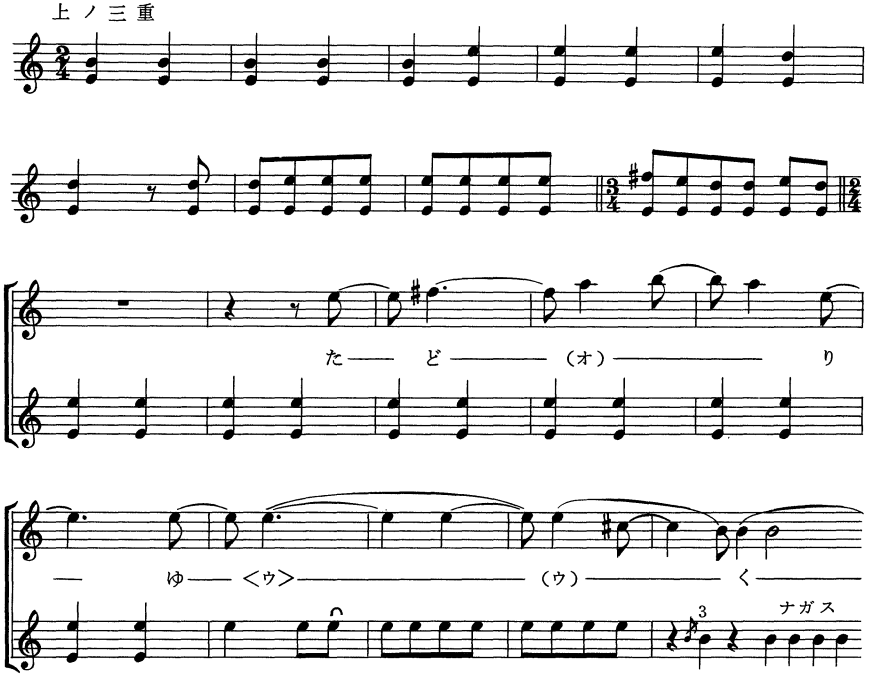
296. 長唄 望月(明治3)

〔二上リ〕



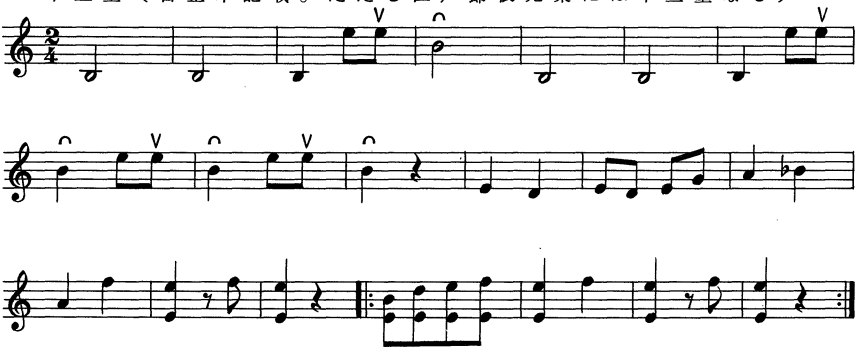
297．義太夫節　壺坂　（広助 節と手順）

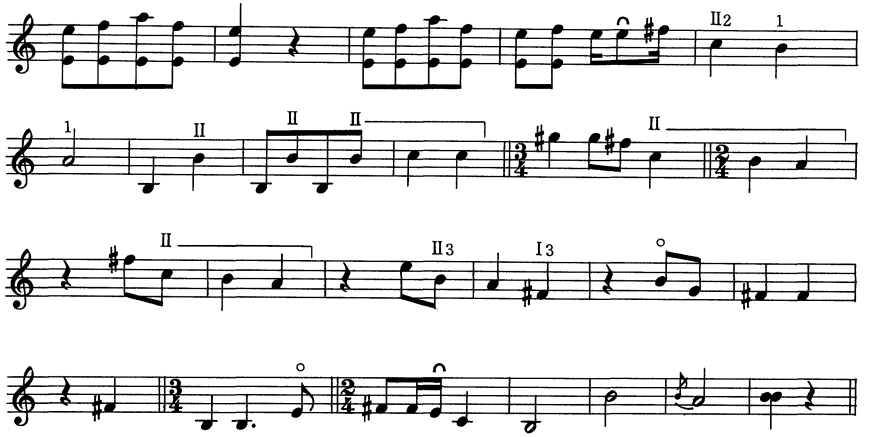
上ノ三重



298．河東節　反魂香

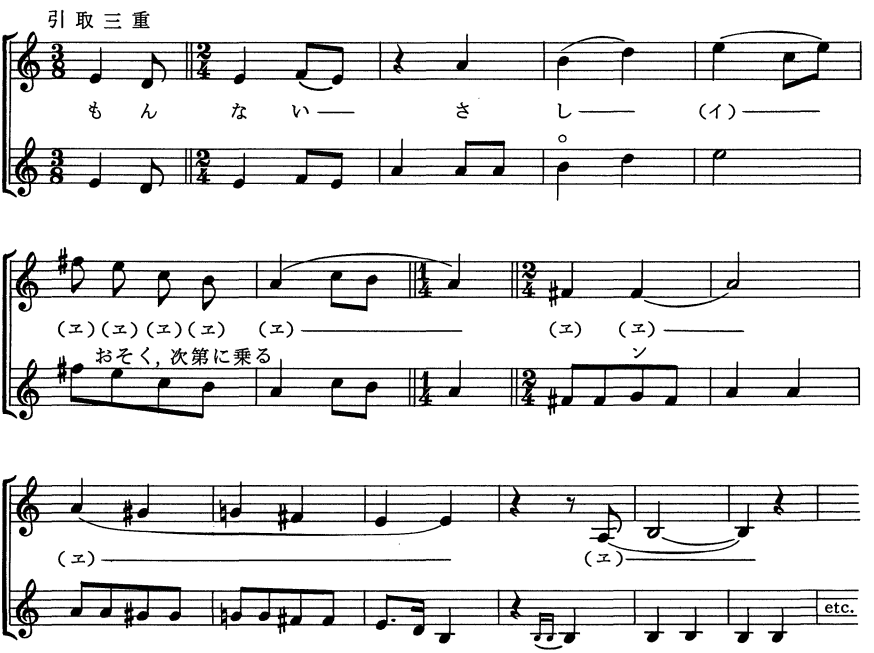
中三重（古正本記載。ただし江戸節根元集には中三重なし）



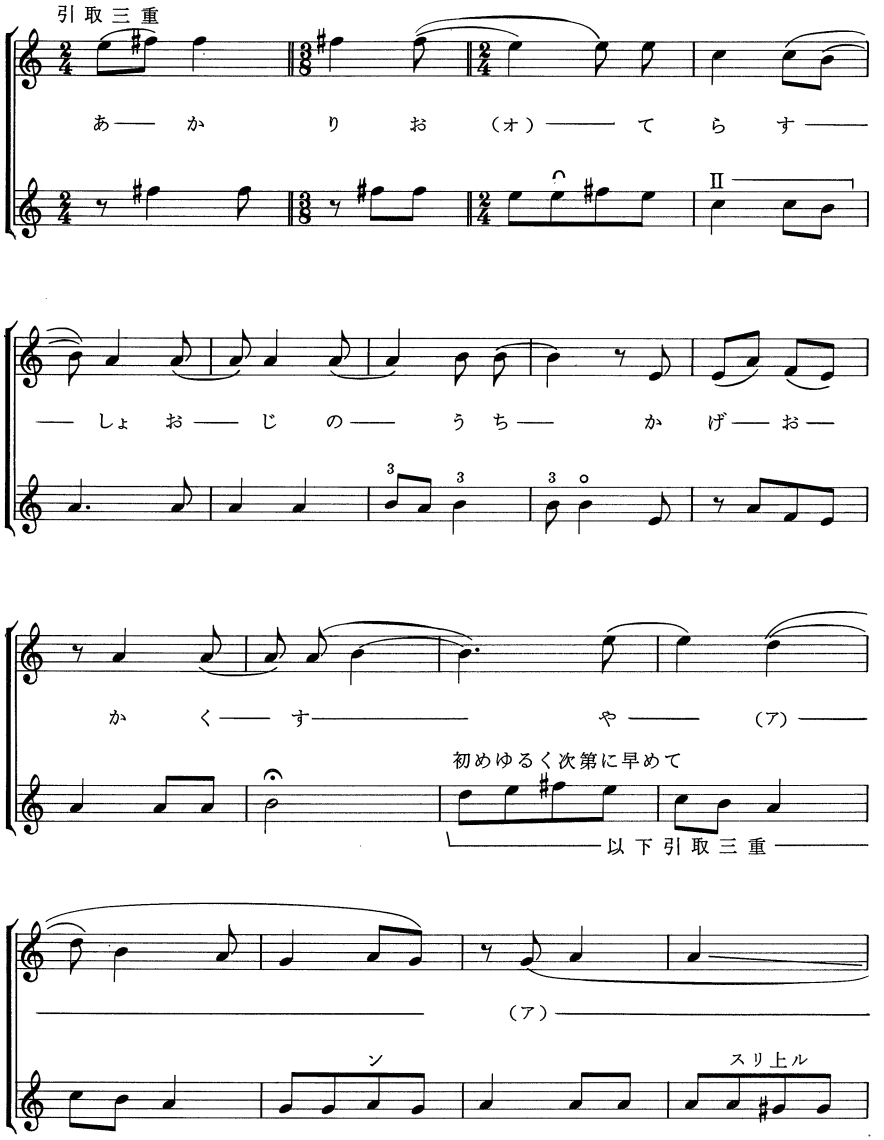


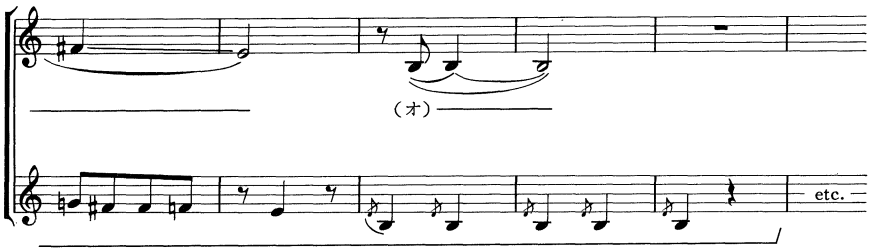
Ⅲ　曲の最終に弾かれる三重

299. 義太夫節　刃傷　豊澤和孝演

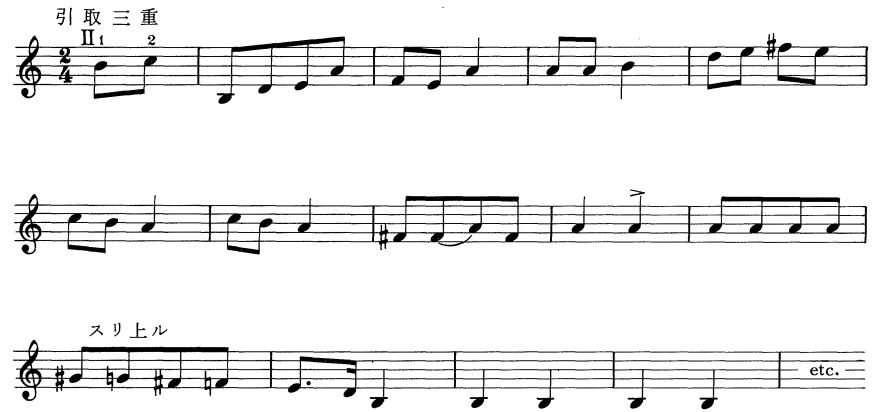


300．義太夫節　一力茶屋　（広助 節と手順）

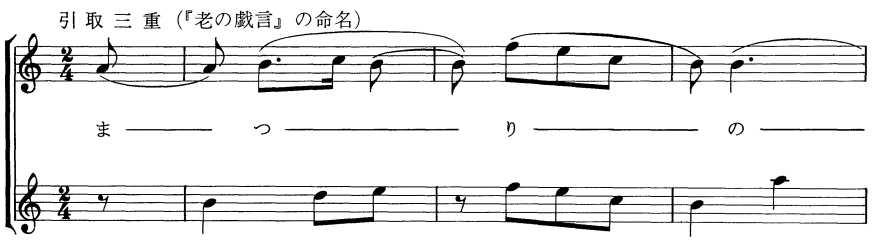


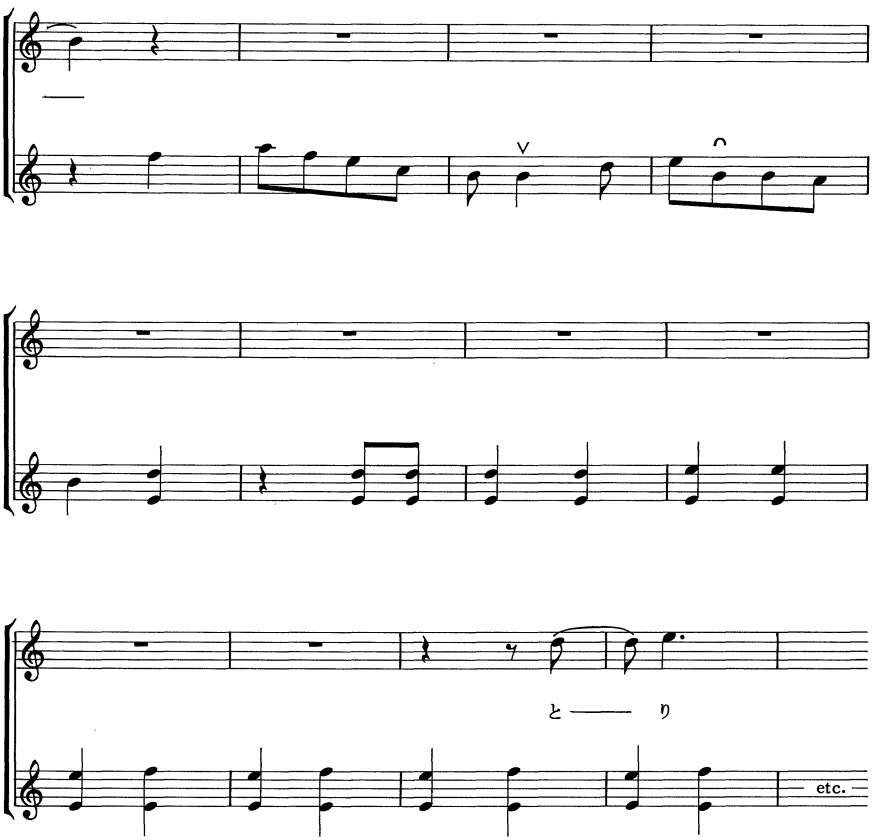


301．義太夫節 〔両秘伝〕

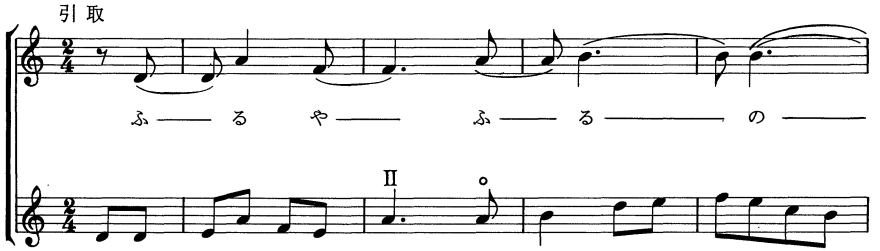


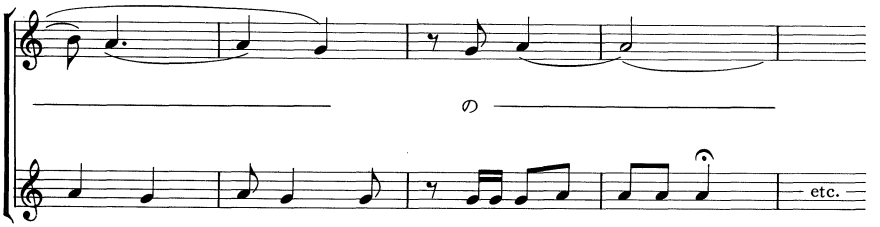
302．常磐津節 子宝三番



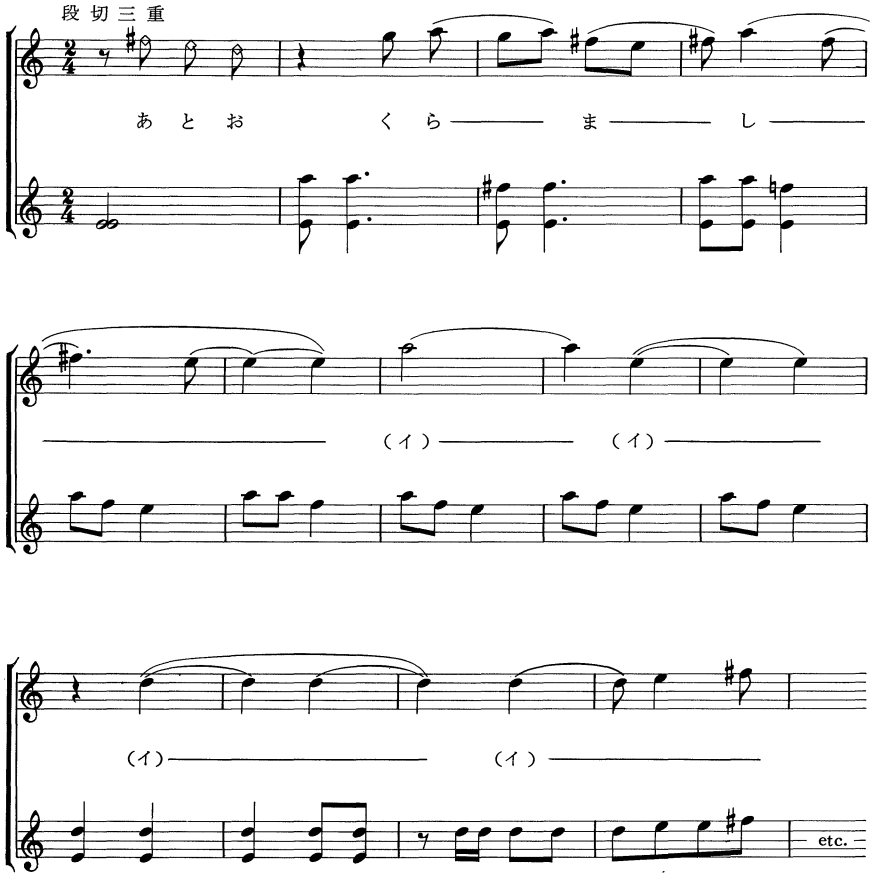


303. 長唄 大原女



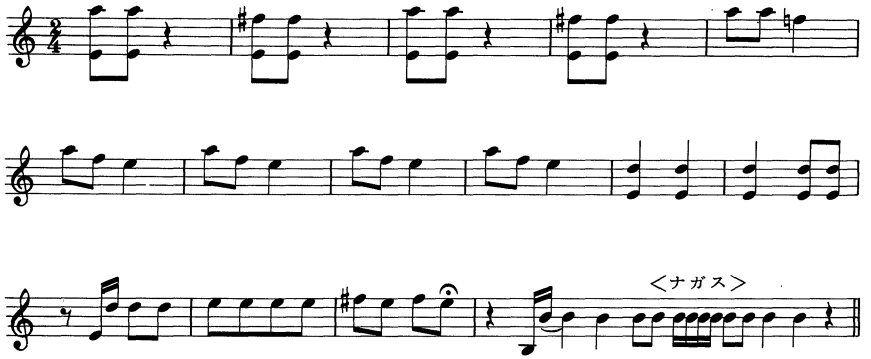


304. 長唄　鞍馬山(安政3)



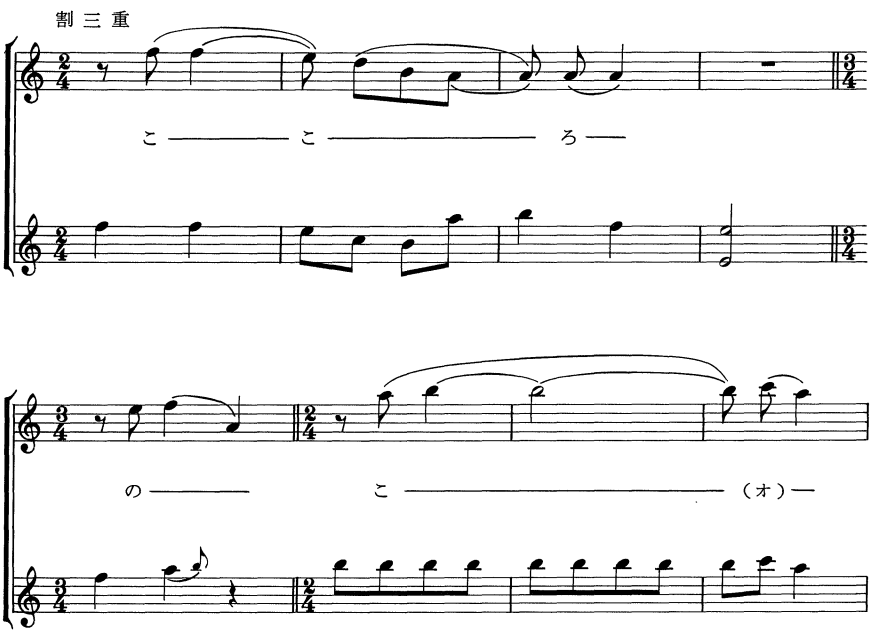
305．長唄 〔大薩摩四十八手三重4種のうち〕

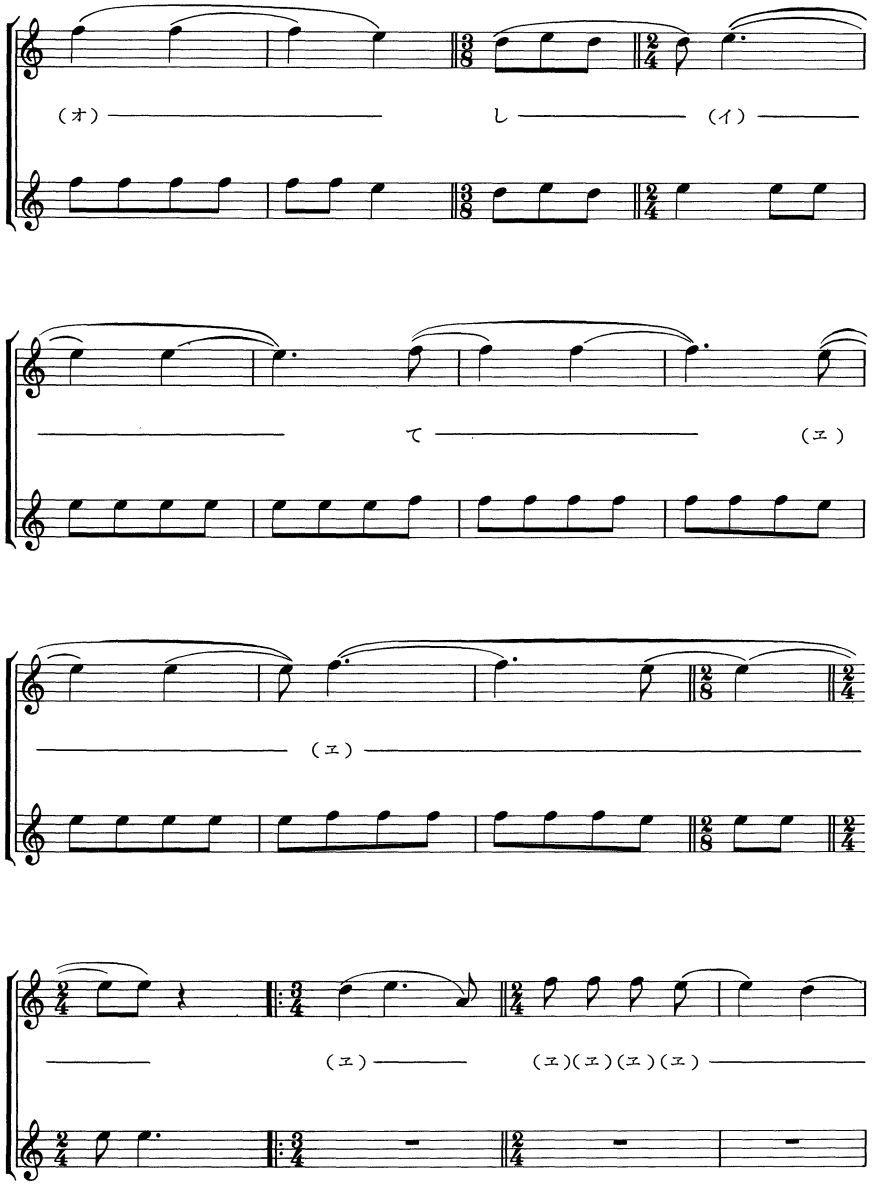
段切三重

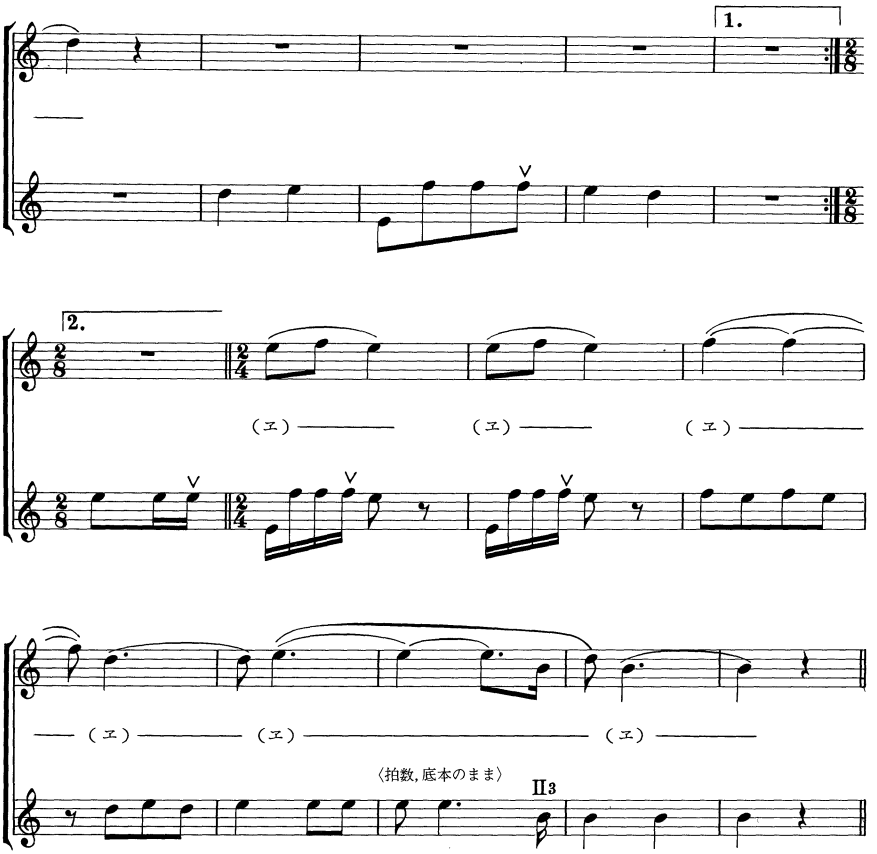


306．義太夫節 山科閑居 （広助 節と手順）

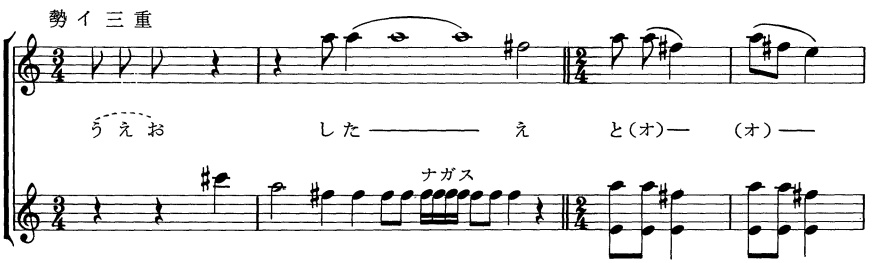
割三重

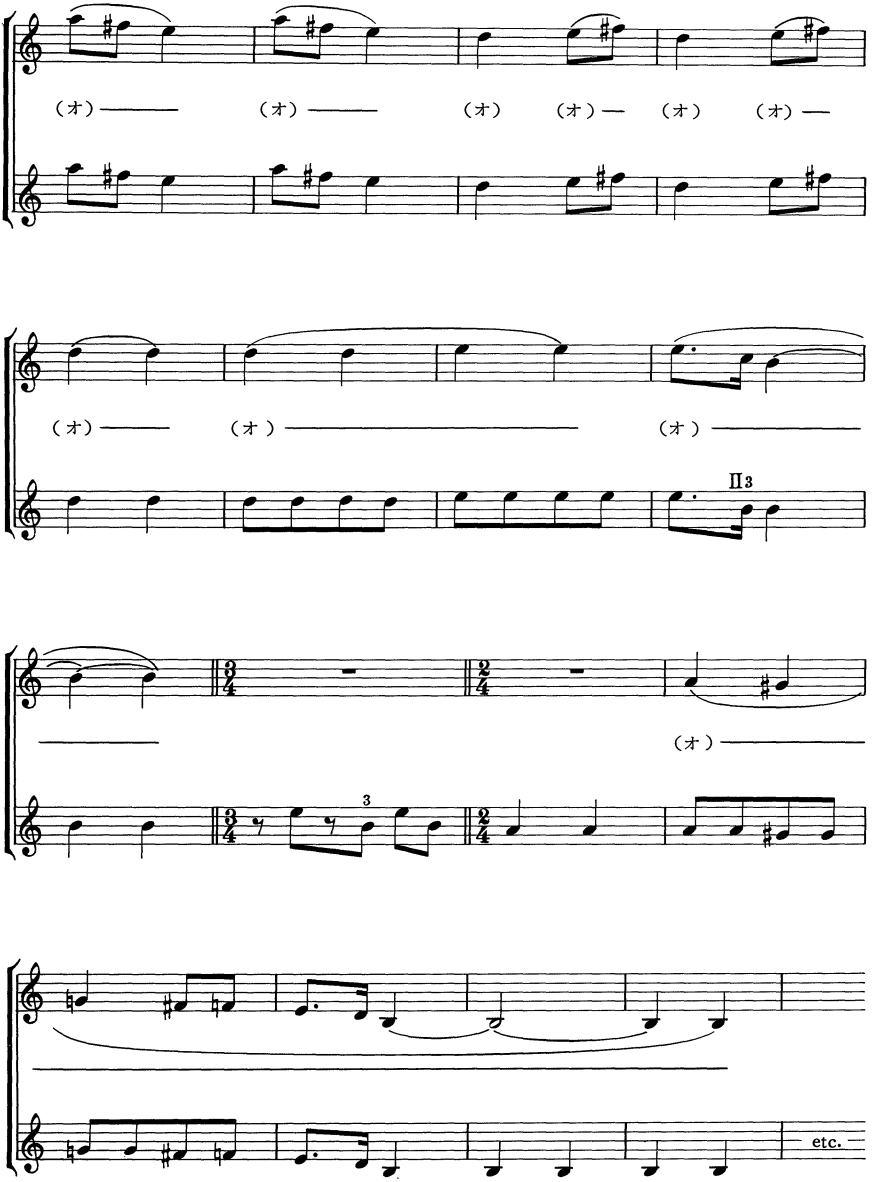



(オ)
し
(イ)
て
(エ)
(エ)
(エ)
(エ)(エ)(エ)(エ)



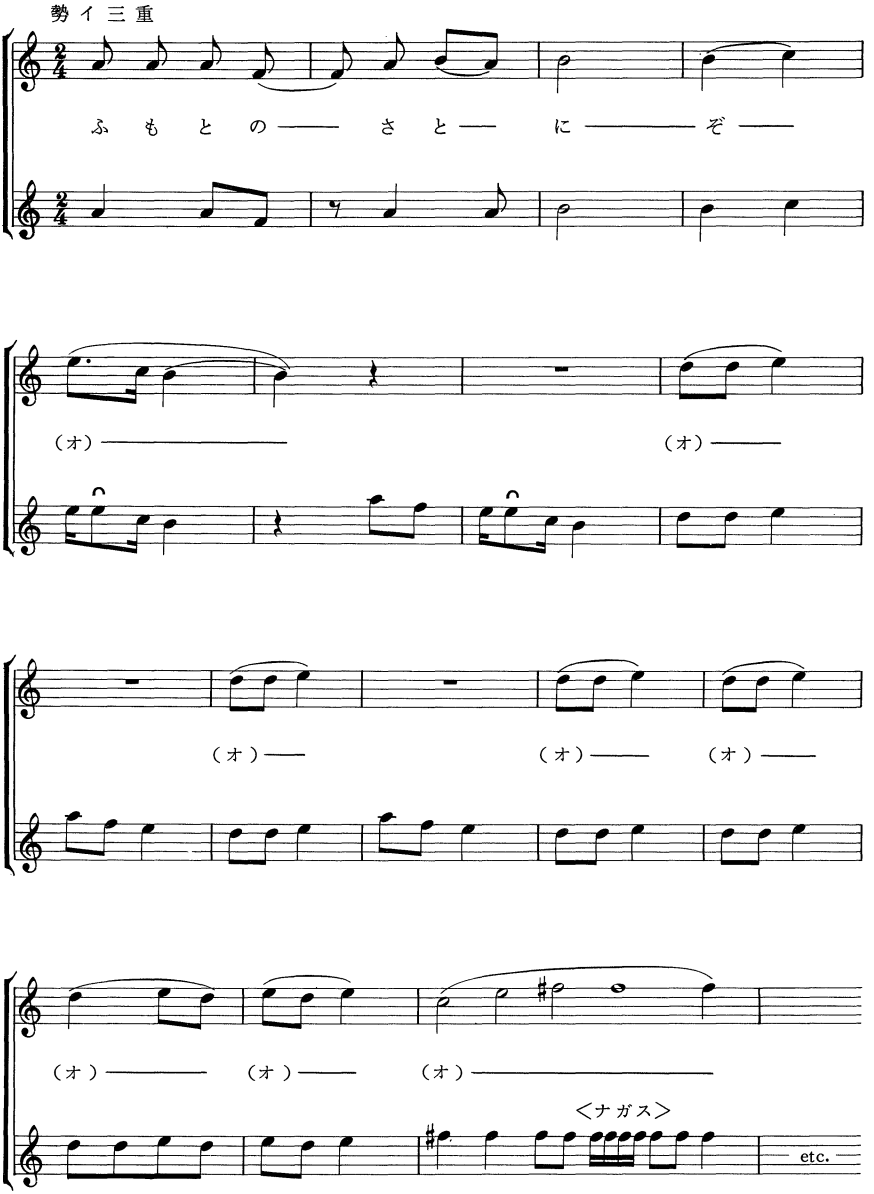
307. 義太夫節　刃傷　豊澤和孝演　(両秘伝記載)



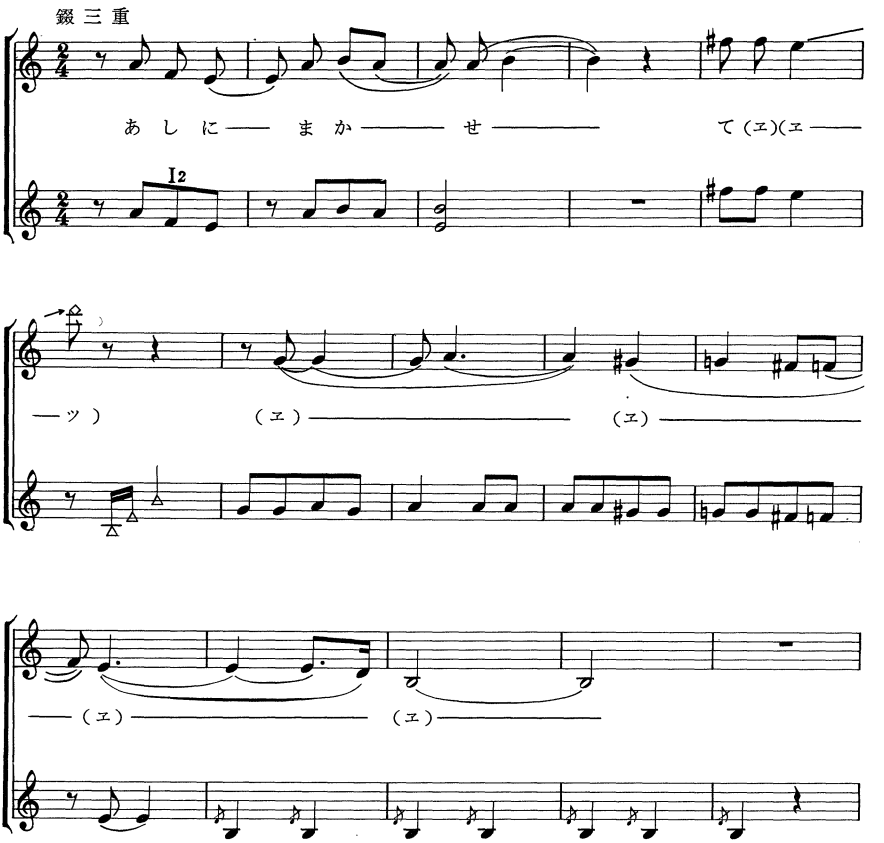

(オ)
(オ)
(オ)
(オ)
(オ)
(オ)
(オ)
(オ)
(オ)
II3
3
(オ)
etc.

308. 富本節・清元節　忠信

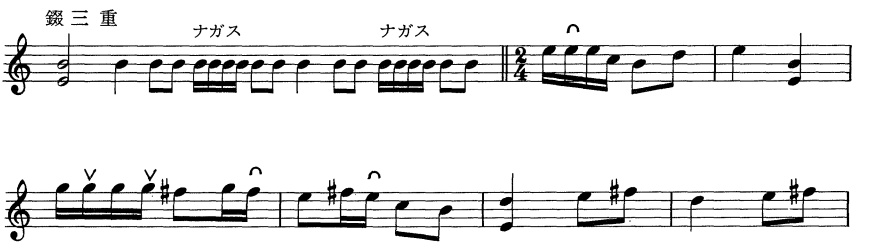
勢イ三重

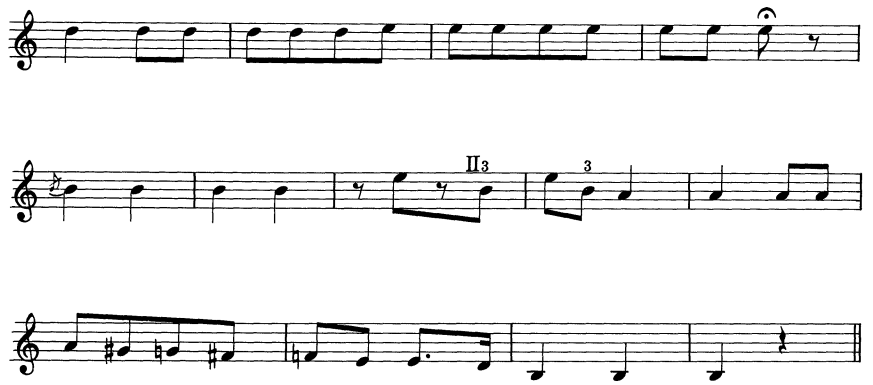


309．義太夫節　沼津　（広助 節と手順）

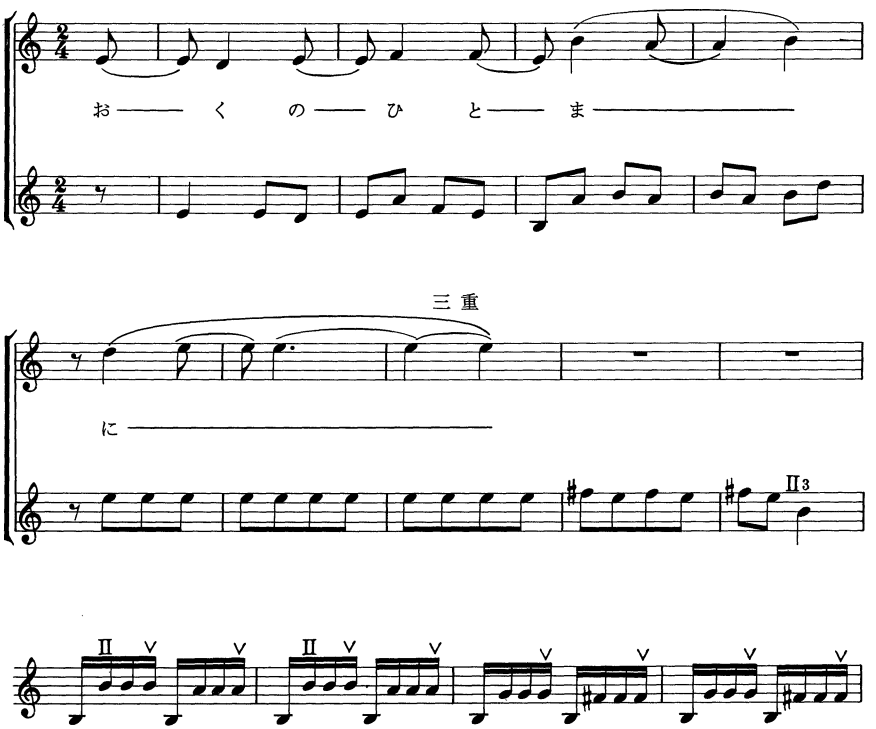


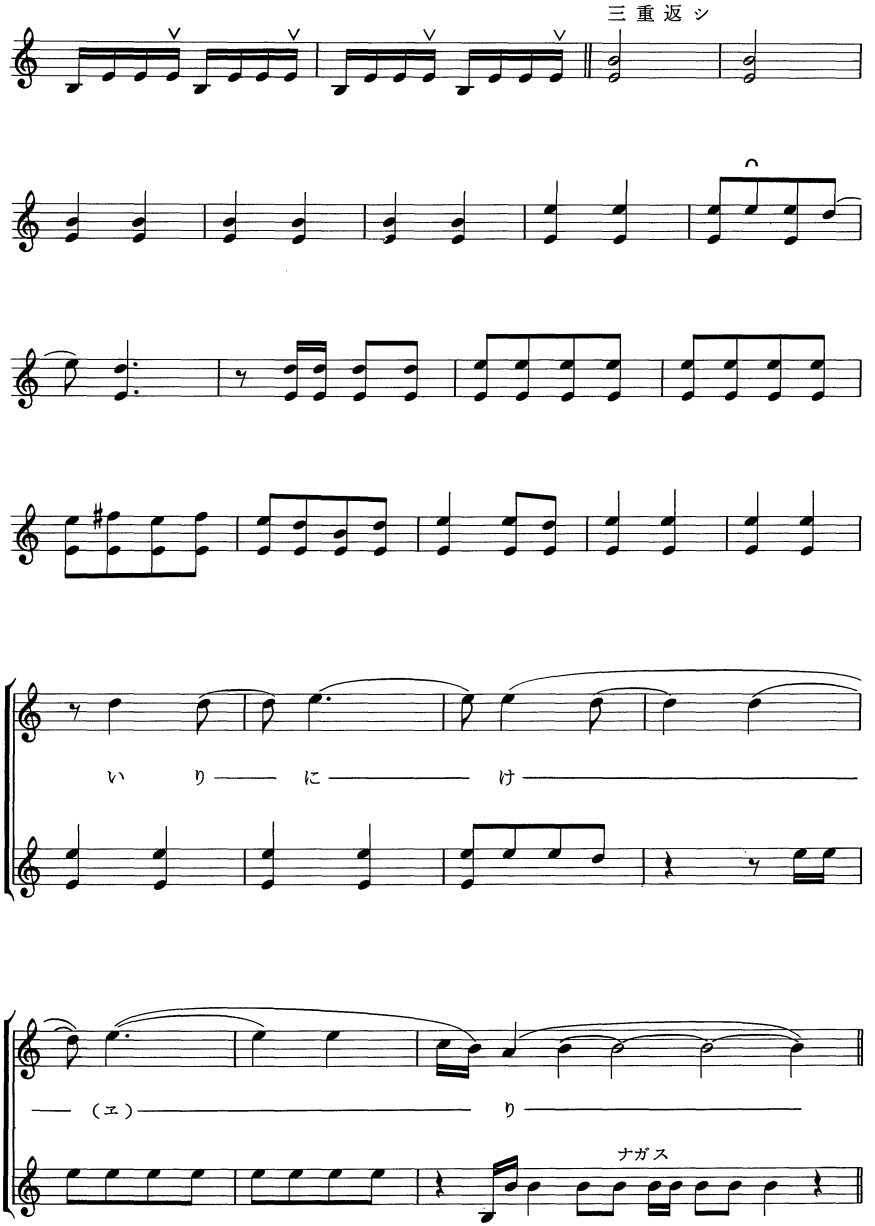
310．義太夫節　〔両秘伝〕





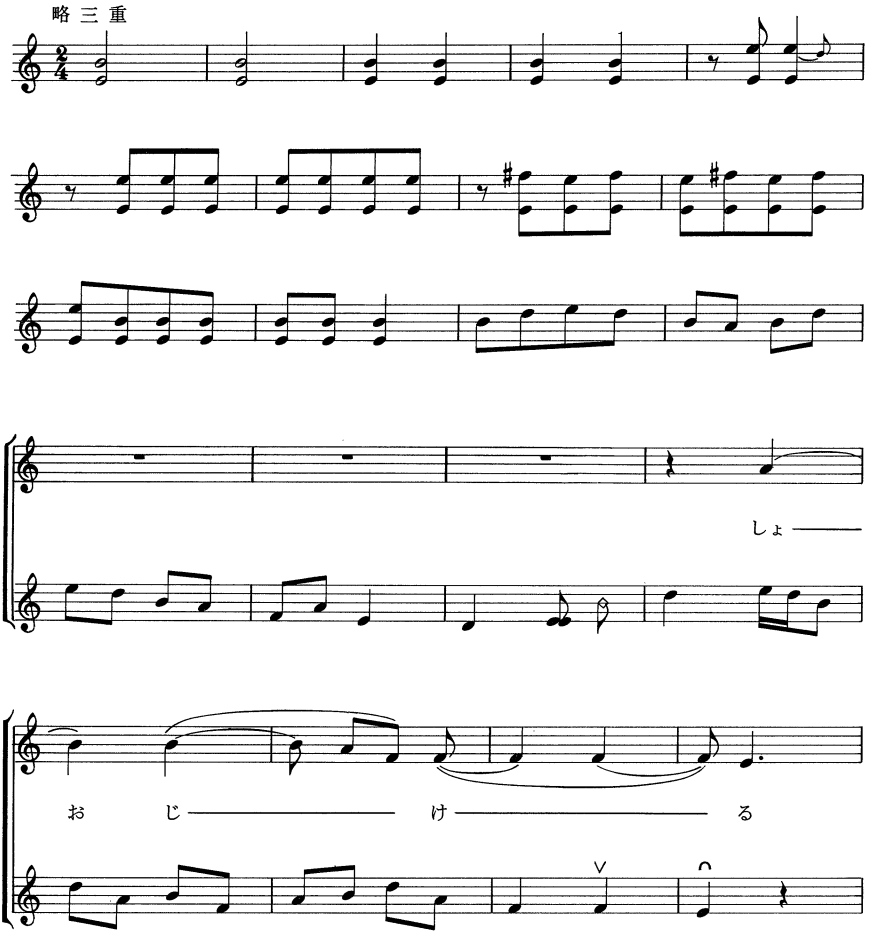
311．**長唄**　望月　（大薩摩四十八手）




三重返シ
い り に け
(ヱ) り
ナガス

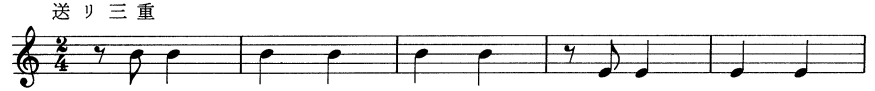
312．長唄　綱館　（大薩摩四十八手三重４種のうち）

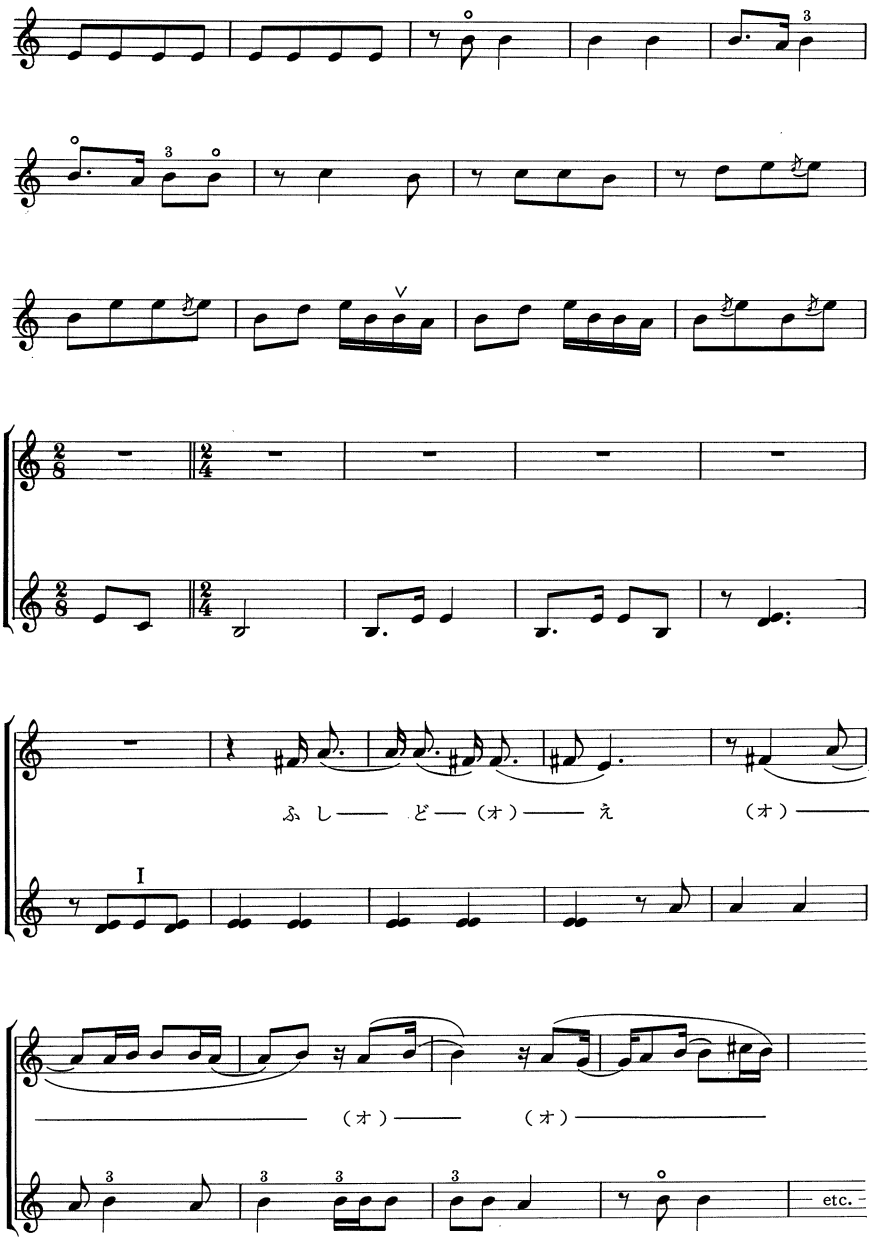
略 三 重



313．義太夫節　十種香

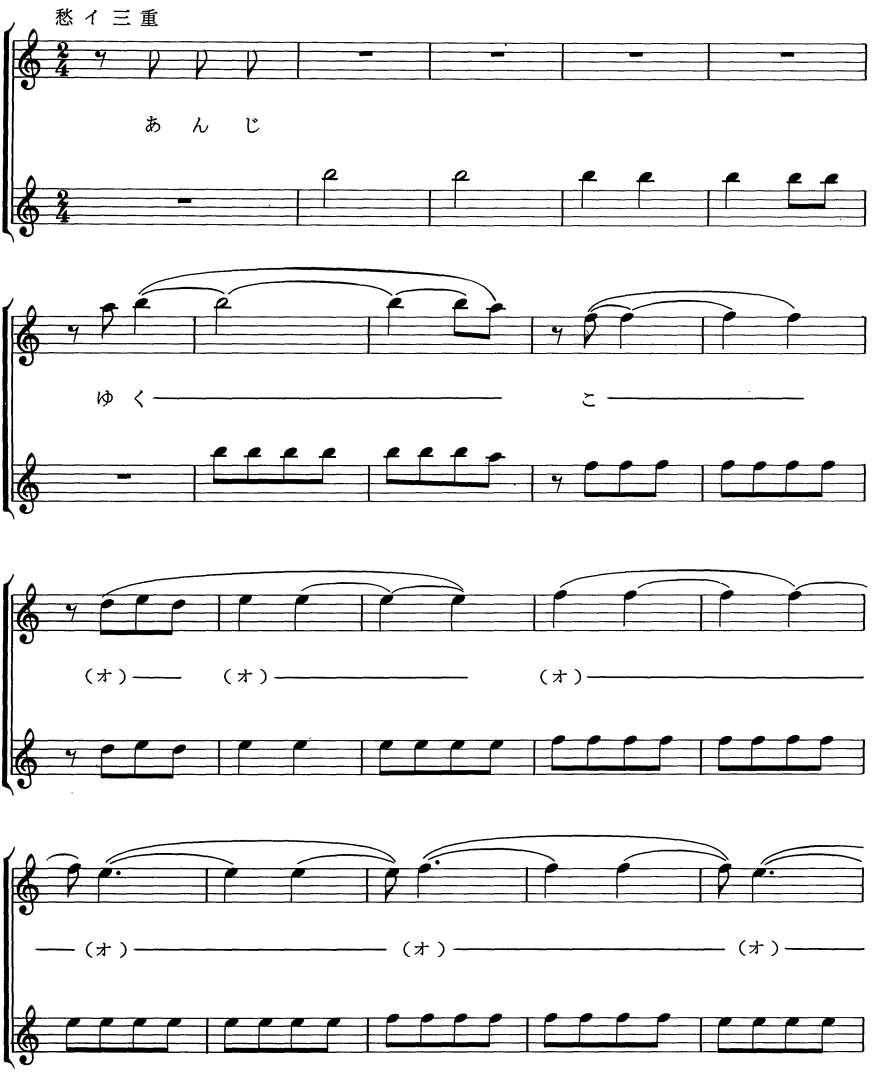
送 リ 三 重

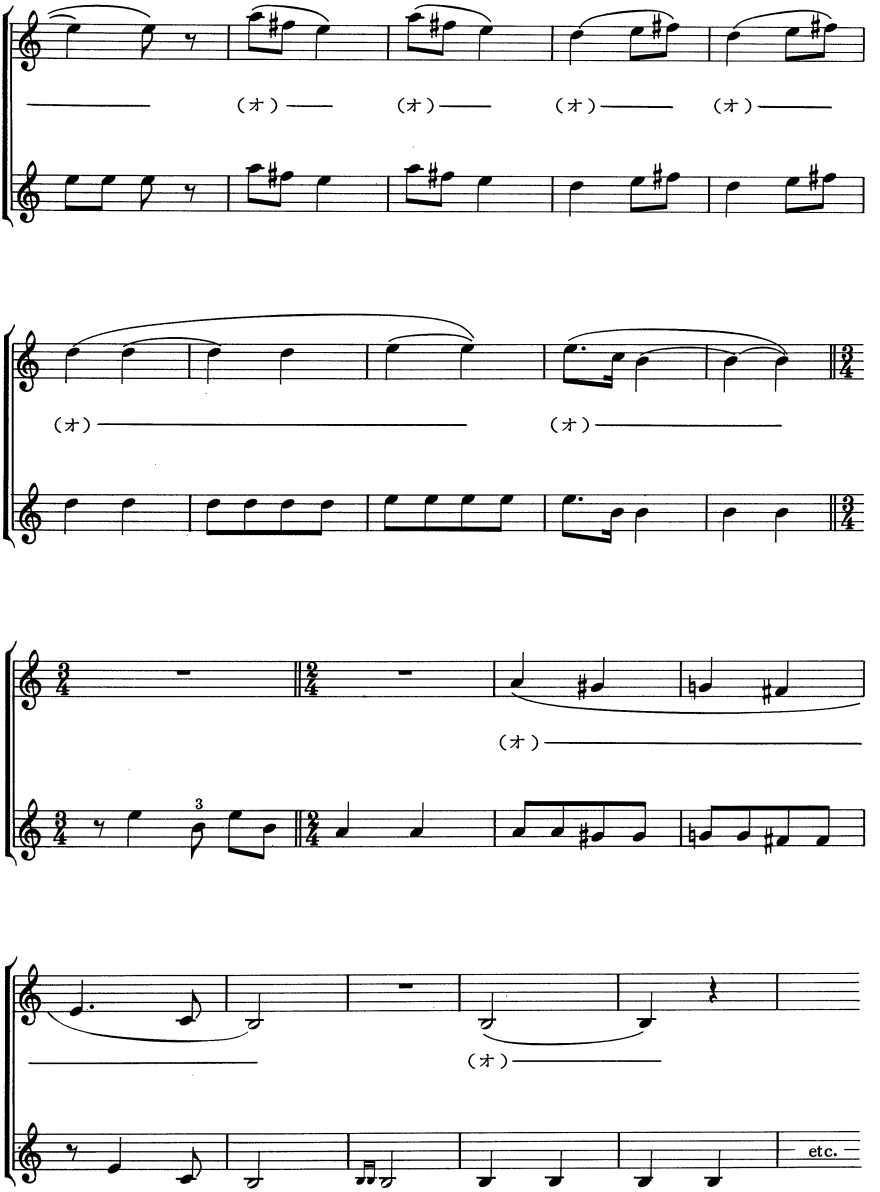



ふ し —— ど —— (オ) —— え (オ) ——
(オ) —— (オ) ——
etc.

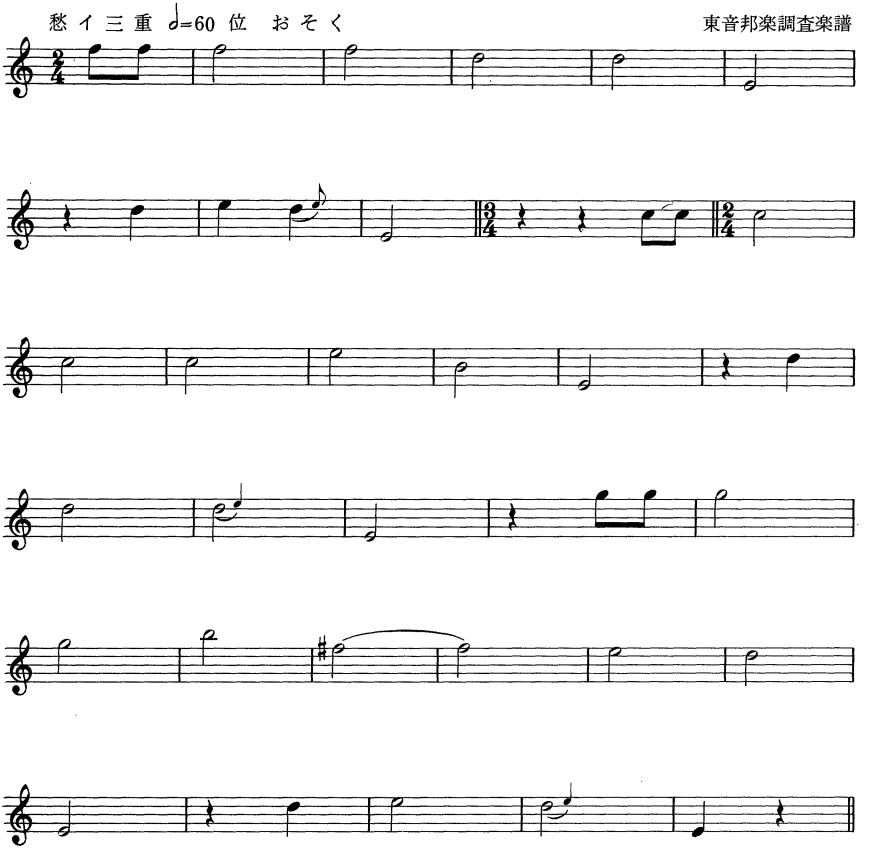
Ⅳ　景容描写的な三重

314. 義太夫節　刃傷　豊澤和孝演

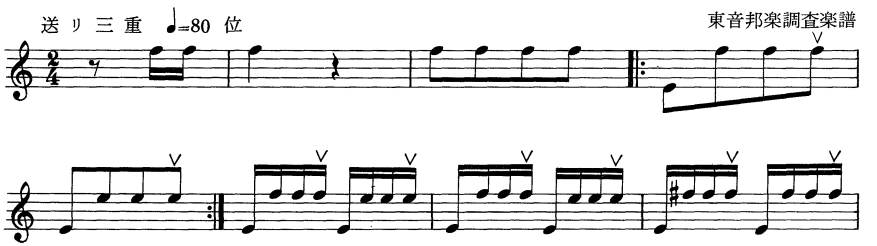


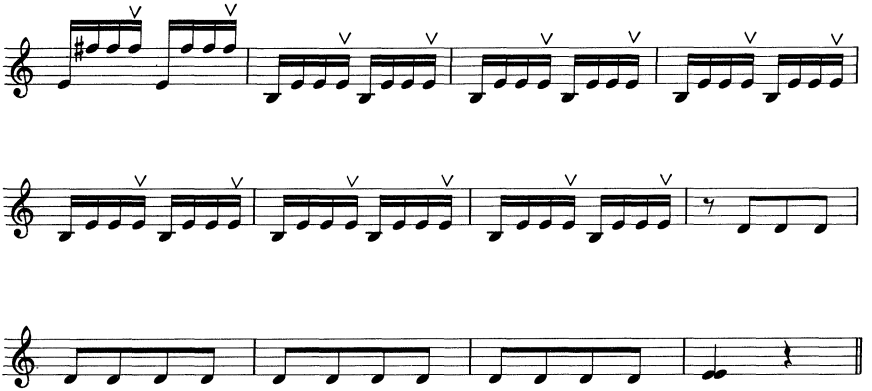

(オ)
(オ)
(オ)
(オ)
(オ)
(オ)
(オ)
etc.

315. 歌舞伎下座 〔判官切腹に用いる〕 1世今藤長十郎演



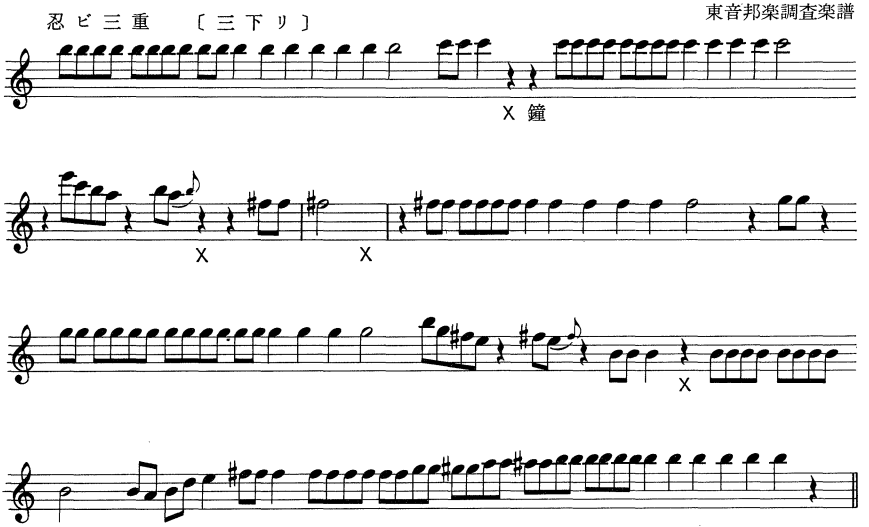
316. 歌舞伎下座 1世今藤長十郎演





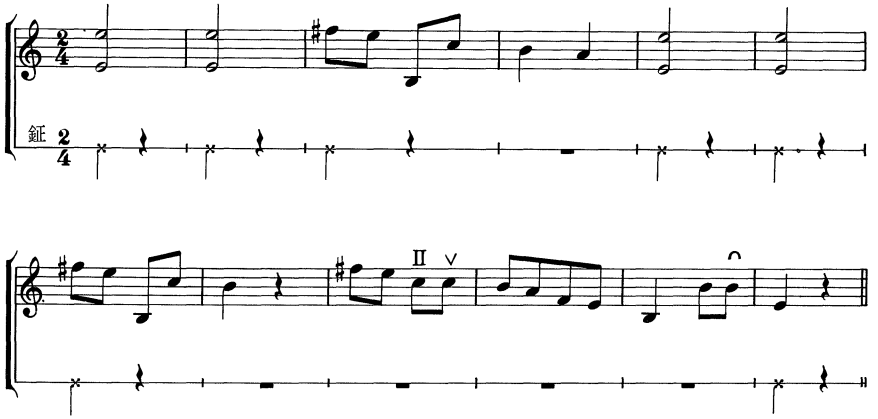
317. 歌舞伎下座 〔山崎街道に用いる〕 1世今藤長十郎演

東音邦楽調査楽譜



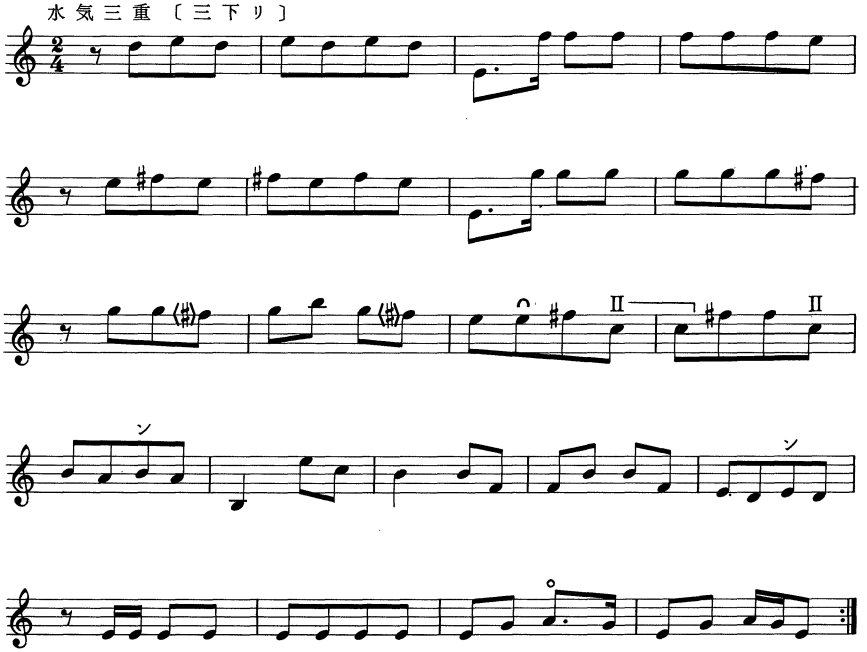
318．歌舞伎下座　〔六部の出に用いる。壬生村の五右衛門にも〕　1世今藤長十郎演

六部三重　〔三下リ〕　東音邦楽調査楽譜

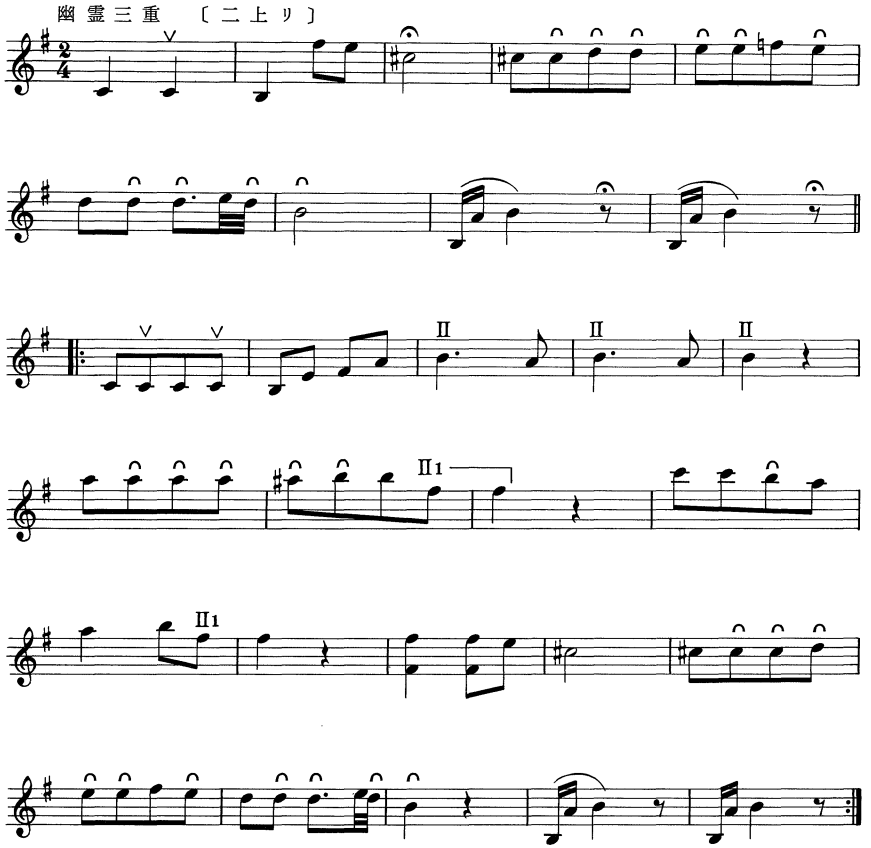


319．歌舞伎下座

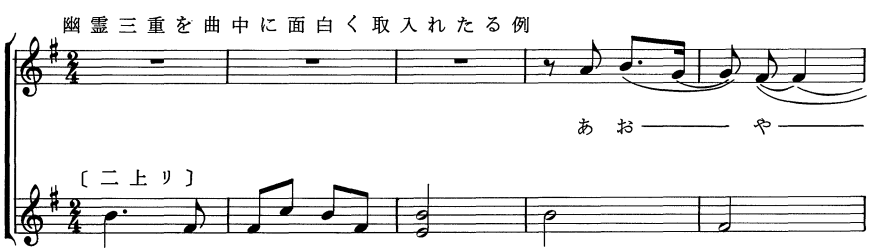
水気三重　〔三下リ〕

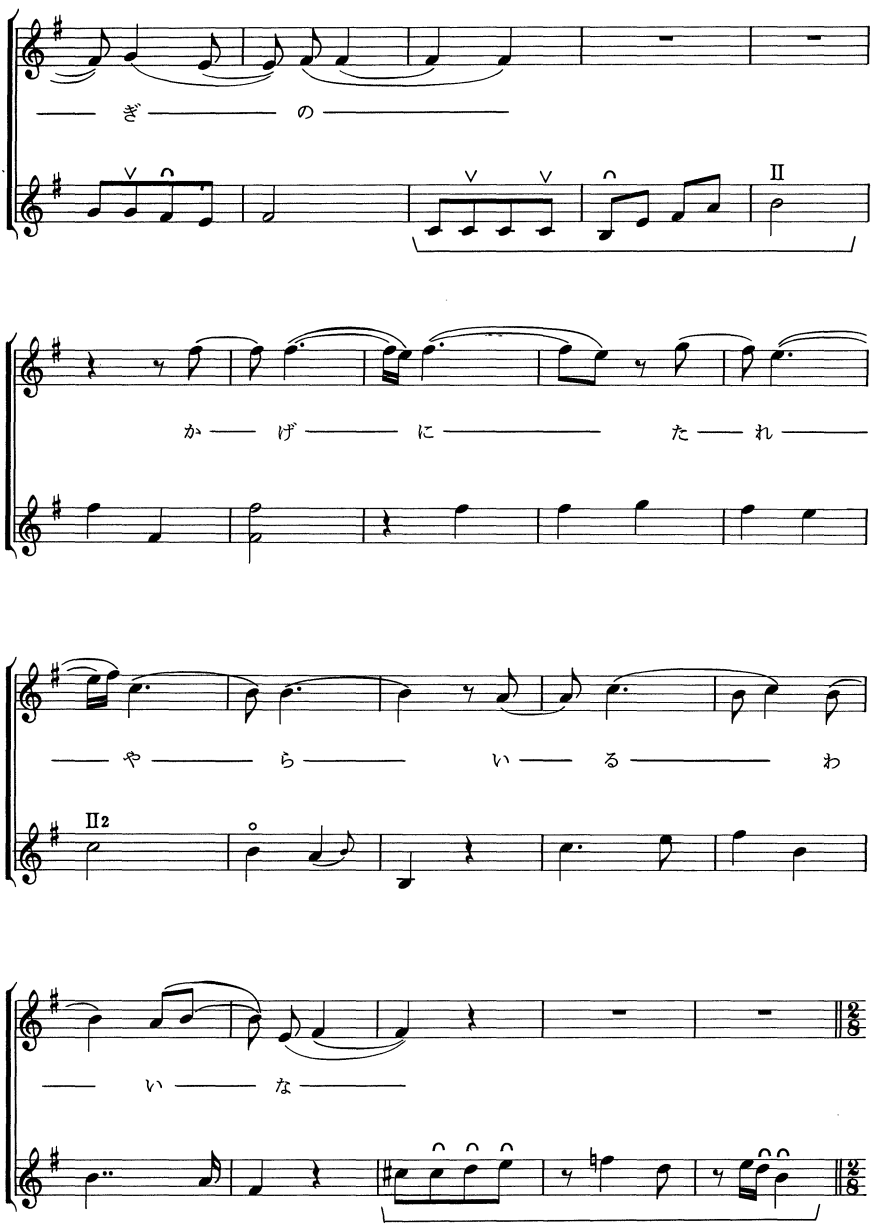


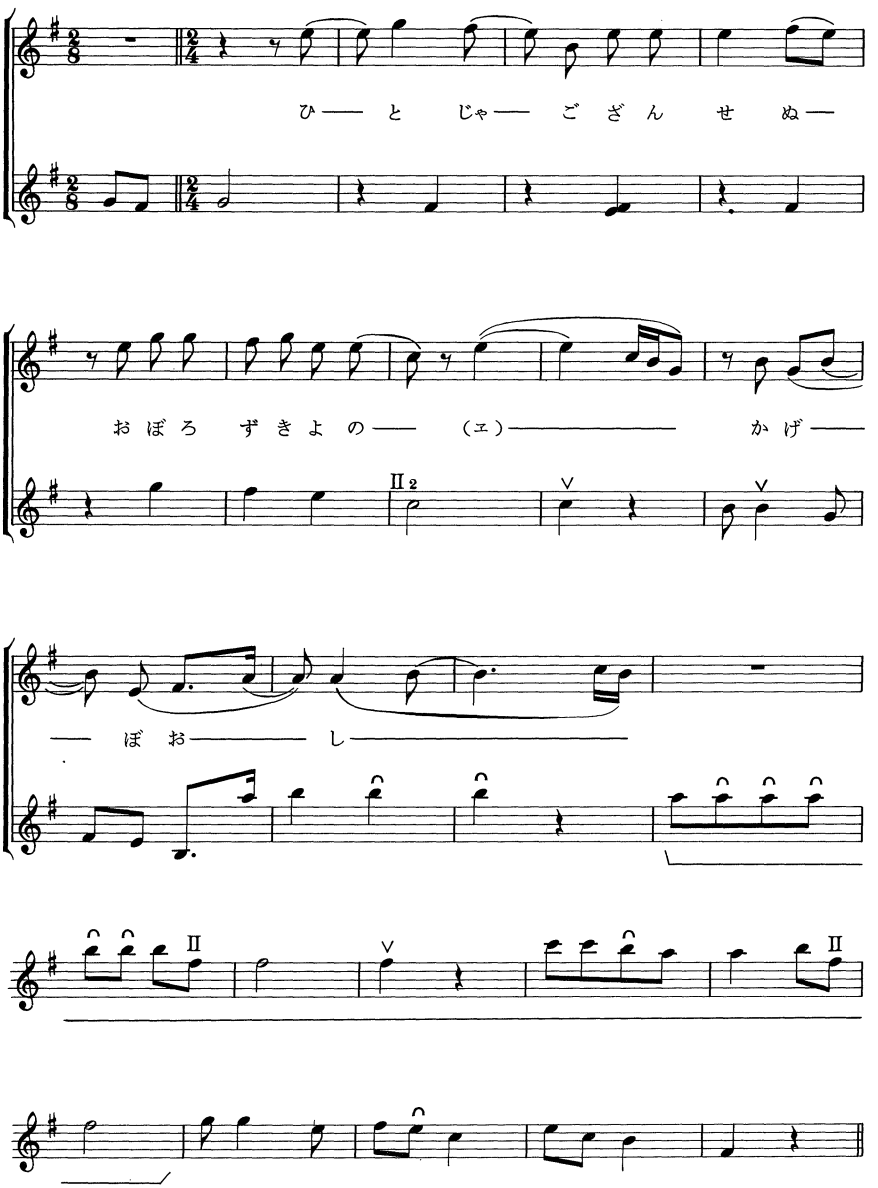
320．歌舞伎下座



321．端唄　青柳

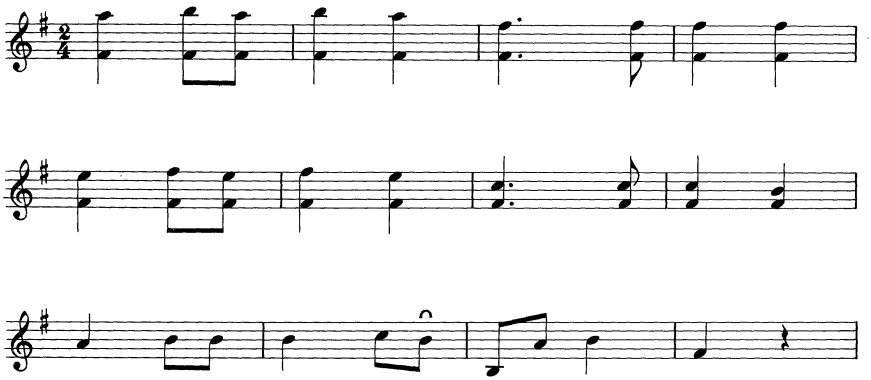



ぎ の
II
か げ に た れ
や ら い る わ
II2
い な


ひ—— と じゃ—— ご ざ ん せ ぬ——
おぼろ ずきよの—— (エ)—— かげ——
—— ぼお—— し——

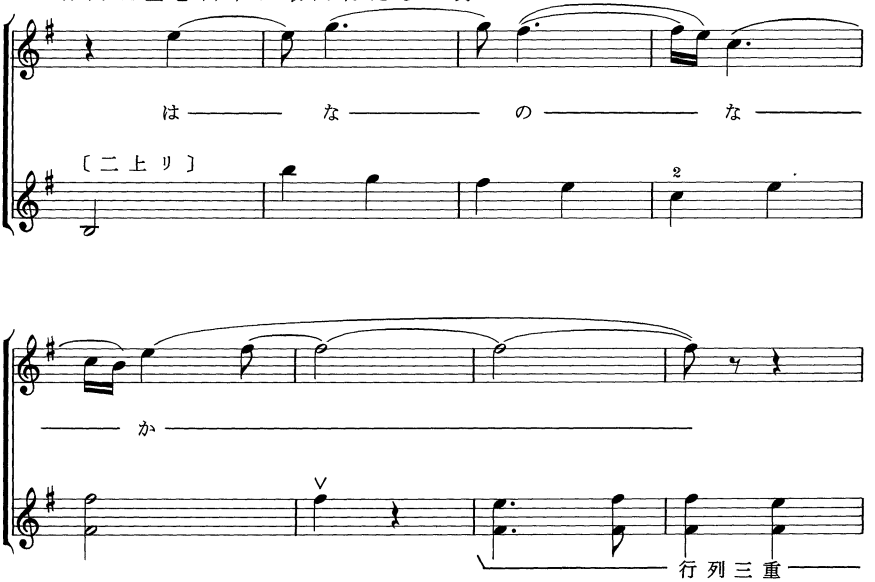
322. 歌舞伎下座

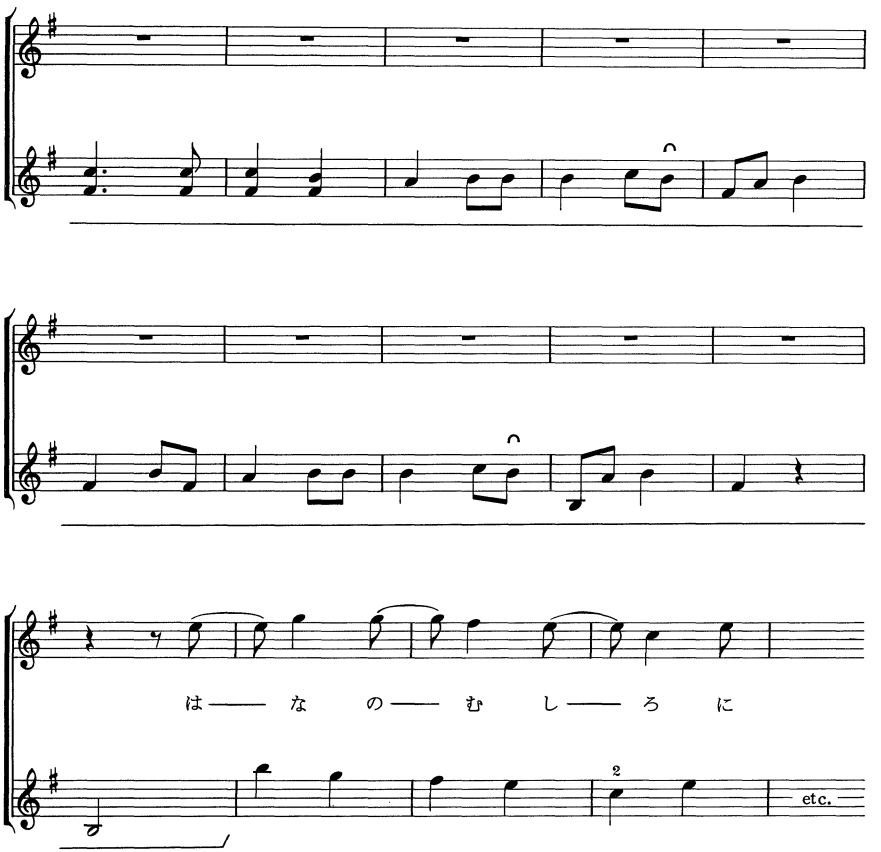
行列三重



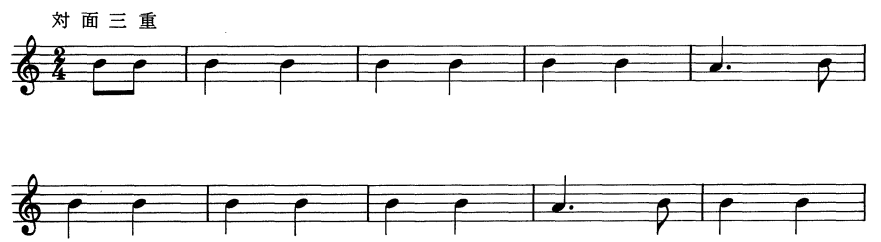
323. 長唄　鞠猿

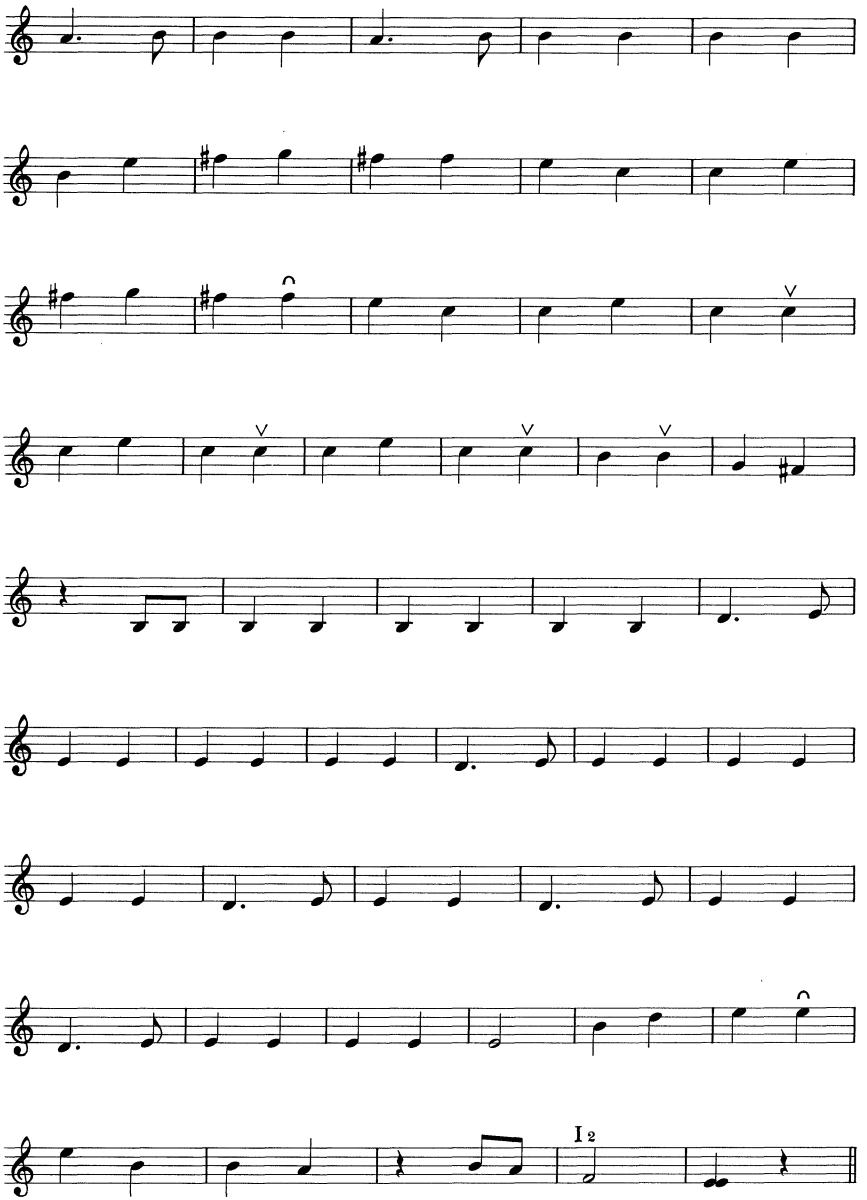
行列三重を曲中に取入れたる一例





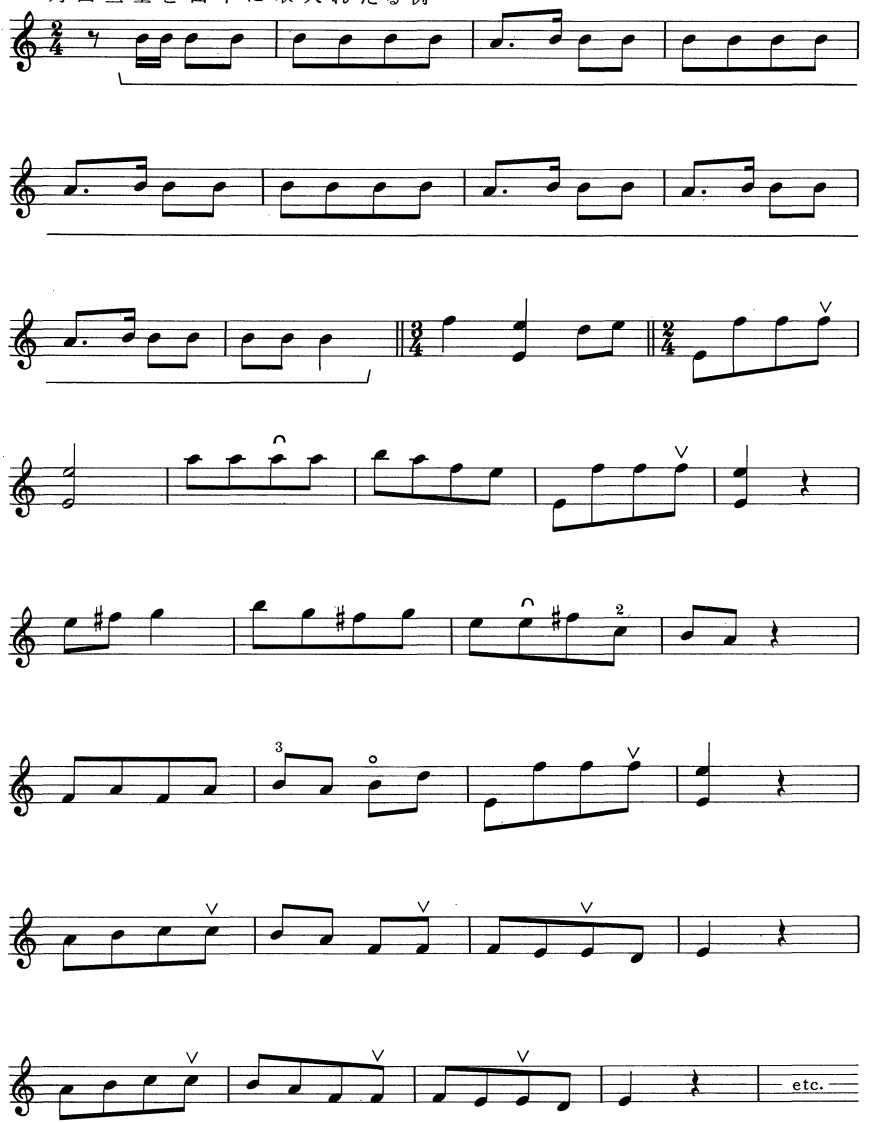
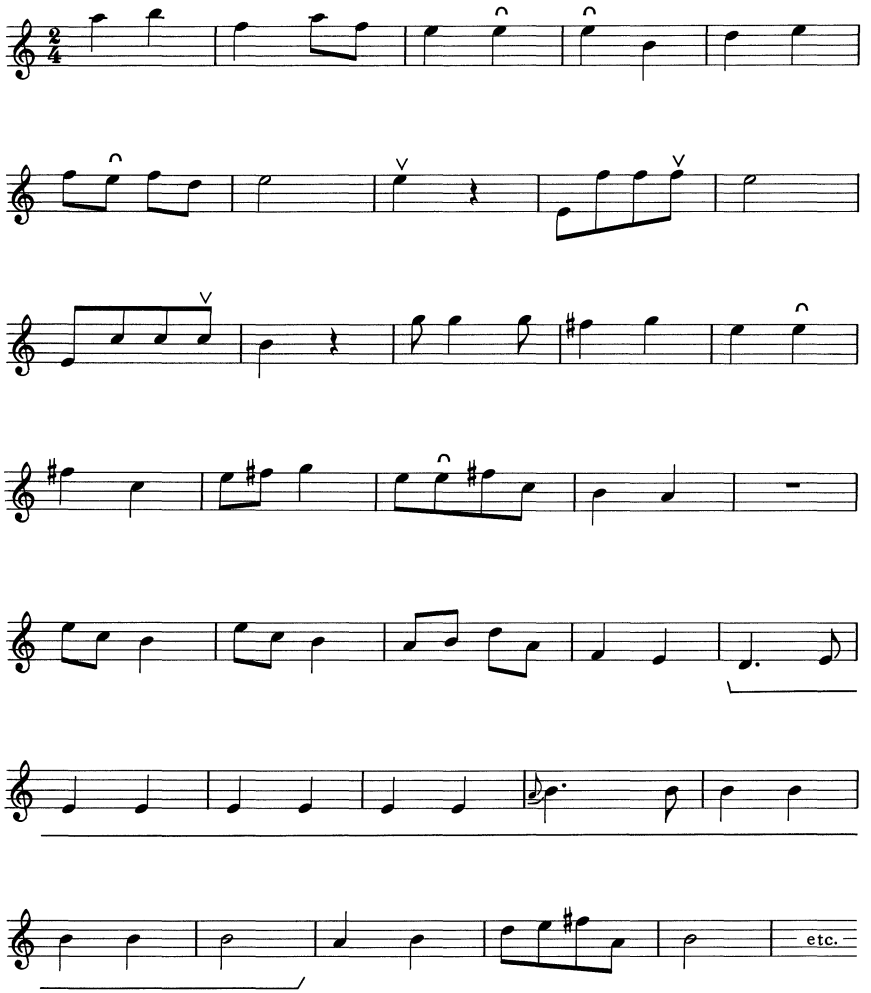
324. 歌舞伎下座




I 2

325. 長唄 春駒(寛政3)

対面三重を曲中に取入れたる例



326．長唄　五郎(天保12)